

ThinkDesign



The installation guide
for v.2020

**DPT / think3 製品
インストールガイド**

think3

目 次

1. インストール.....	1
1-1. インストールの前に.....	1
1-2. インストール.....	3
1-3. オプション機能の追加／削除.....	6
1-4. バージョン切り替え.....	7
1-5. よくあるお問い合わせ.....	8
2. ライセンス.....	13
2-1. ライセンスについて.....	13
2-2. ライセンスの取得.....	15
2-3. ライセンスの移動.....	18
2-4. ライセンスの更新.....	21
2-5. ユーザーの追加.....	25
2-6. よくあるお問い合わせ.....	26
3. フローティングライセンス.....	39
3-1. はじめに.....	39
3-2. サーバーの設定.....	39
3-3. クライアントの設定.....	41
3-4. その他の設定など.....	41
4. 付録.....	46
4-1. 印刷の設定.....	46
4-2. 図面枠と表題欄のカスタマイズ.....	51

1. インストール

1-1. インストールの前に

1. システム要件(対象バージョン 2020.1.125.20722)

以下がシステム要件です。インストールの前にご確認ください。

●最低条件

OS	Microsoft® Windows® 10(64bit)
CPU	Intel® 64、AMD64 プロセッサ
メモリ	4 GB
ハードディスク	約 1.5 GB(標準インストール時)
ビデオカード	OpenGL™ 2.0 グラフィックアクセラレーター(メモリ 512 MB) (NVIDIA 社 Quadro シリーズをご使用ください。)
その他	Microsoft® .NET Framework 4.0 以降 その他必要なコンポーネントはインストール時に自動的にインストールされます。

●推奨条件

CPU	Intel® 64 Xeon®, AMD 64 プロセッサ
メモリ	メインメモリ 8 GB
ビデオカード	OpenGL™ 3.0 グラフィックアクセラレーター(メモリ 1 GB 以上)

2. インストール時の注意事項

インストール時には以下の点にご注意ください。

- ・インストールは管理者権限を持ったユーザーで Windows にサインインして行う。
- ・事前に Windows Update で重要な更新をすべてインストールしておく。
- ・インストール時は起動しているアプリケーションはすべて終了する(アンチウィルスソフトなども含む)。
- ・Gemalto(旧 SafeNet)社のライセンス管理プログラムを使用する他社ソフト用 dongle があれば外して再起動する。
- ・ユーザー名に日本語(2バイト文字)を含んだユーザーでは使用しない(使用できません)。
- ・ユーザー名「user」のユーザーでは使用しない(使用できません)。
- ・日付の形式で「和暦」を選択しない。
- ・Microsoft Office 365/2016(以降)と同時に使用する場合は、64bit 版の Office 製品が必要です。
- ・ローカルライセンスでは仮想マシンとリモートデスクトップセッションはサポートされません。

3. キーID

製品のライセンスは各PCに対して発行され、各PC固有の情報とライセンス情報から「キーID: 18桁程度の数字」が生成されます。「キーID」から、ライセンスとPCを特定することができます。

キーIDは「Sentinel Admin Control Center(ACC)」で確認することができます。ACC は、製品起動後、ヘルプ→ライセンスアドミニストレーター で起動することができます。

なお、キーIDはネットワークカードの MAC アドレスではありません。

4. CPU

システム要件のCPUに関する記述について追記します。

Intel® 64:

Xeon (Nocona 以降、Sossaman 除、Xeon MP については Cranford/Potomac 以降)

Core i9, Core i7, Core i5, Core i3, Core 2, Core M

Pentium Dual-Core

Atom (model 230/330, N450/D510/D410)

Pentium D

Pentium 4 (Prescott は model F 以降、model 521/531/541/551/561/571)

Pentium Extreme Edition

Celeron D (model 326/331/336/341/346/351/355/356)

Celeron Dual-Core

Celeron M (model 520/530)

Celeron 200 シリーズ(model 220), 400 シリーズ, 500 シリーズ

AMD 64:

Athlon 64, 64 X2, 64 FX

Athlon II

Opteron

Turion 64, 64 X2

Sempron

Phenom

Phenom II

Bulldozer (マイクロアーキテクチャ) FX

APU

Ryzen

EPYC

出典: <https://ja.wikipedia.org/wiki/X64>

5. プログラムとライセンス

ThinkDesign は、カスタマーケアサイトからダウンロードしたプログラムをPCにインストールし、同じPCにカスタマーケアサイトで取得したライセンスを入力して初めて使用可能になります。

ThinkDesign のプログラムはカスタマーケアサイトログイン後、「Download」よりダウンロードすることができます。また、ライセンスは、同じく「Licenses」から取得することができます。

本インストールガイドでは、この順番に説明してまいります。

なお、カスタマーケアサイトのログインについては「2-2. ライセンスの取得」をご覧ください。

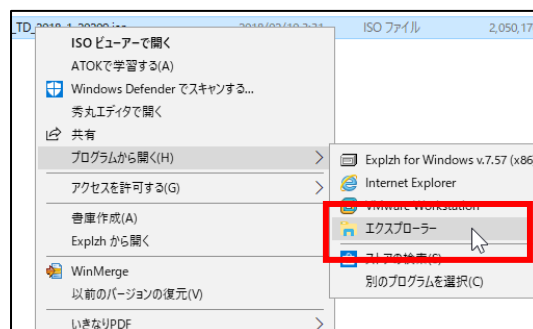
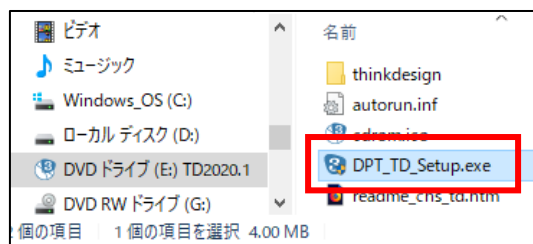
1-2. インストール

1. ファイルの展開

カスタマーケアサイトからダウンロードした iso ファイルはダブルクリックすると任意のドライブに割り当てられます。割り当てられたドライブのルートにある DPT_TD_Setup.exe を実行するとインストーラーがスタートします。

iso ファイルを取り扱うソフトウェアが後からインストールされていた場合、ダブルクリックするとそのソフトウェアが起動することがあります。

その場合、iso ファイルを右クリックし、
プログラムから開く → エクスプローラー
と選択してください。



2. 言語と製品の選択

インストーラーがスタートすると、はじめに言語を選択します。通常は「Japanese (日本語)」を選択します。

また、通常は「アプリケーションのインストール」と「ドキュメントのインストール」の両者にチェックしてください。それぞれ ThinkDesign のプログラム本体とオンラインヘルプを指し、2つのインストールプログラムが走ります。

続いて「確認」ボタンを押すとインストールが始まります。はじめて ThinkDesign をインストールする際は、前提プログラムをインストールするため少し時間がかかります。

前提プログラムがインストールされた後は、セットアップウィザードが起動するので、ウィザードの案内に従ってインストールを進めます。

アカウント番号の入力ページではお客様のアカウント番号 (T3-00 数字5桁) を入力します。アカウント番号はカスタマーケアサイトにログインすると右上に表示されます。(「T3-」からすべて入力します。)



3. セットアップの種類を選択

セットアップの種類を選択では、ご使用のライセンスに合わせて主要製品を選択します。

複数の異なった製品を使用する場合や、よくわからない場合は、「TDProfessional」を選択してください。

その他、ダイレクトコンバーター (TDXchangeReader) などのオプションを必要に応じて選択します。



4. インストールの終了

インストールが完了すると右のダイアログが表示されます。「完了」をクリックします。

デスクトップに c2v ファイルが作成されます。

「ドキュメントのインストール」にチェックした場合は、続いてドキュメント(オンラインヘルプ)のインストールが行われます。



注意1:

バージョン 2018SP1 以降では、同じバージョンの別のビルドがインストールされている場合、インストールを続行することはできません。

この場合、セットアップ画面に「警告」が表示され、「確認」ボタンが押せなくなります。

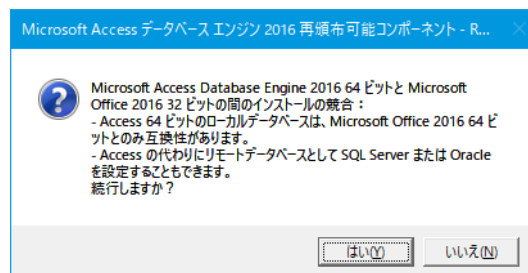
先に別のビルド(ドキュメントと ThinkDesign 本体)をアンインストールしてからインストールをお試しください。



注意2:

バージョン 2020 以降では、32bit 版の Microsoft Office 365 / 2016 (以降) と互換性がありません。インストール時に 32bit 版の Office 製品が検出されると右のメッセージが表示されます。

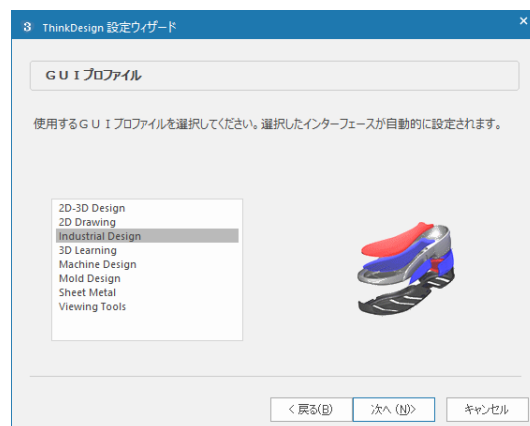
ここでは「いいえ」を選択してインストールを中止し、64bit 版の Office 製品をインストールした上で、再度 ThinkDesign をインストールしてください。



「はい」を選択して続行することもできますが、その場合は一部の機能が動作しません。

5. 設定ウィザード

製品の初回起動時は、起動に先立ち右のような「設定ウィザード」がスタートします。設定ウィザードでは、使用する図面規格、測定単位、GUI プロファイルなどを選択します。



なお、設定ウィザードのプログラムは、以下の場所にあります。

C:\Program Files\think3\<バージョン>\thinkdesign\bin\tdSettings.exe

6. インストール後

インストール後には以下の点にご注意ください。

- システムの日付と時刻

ライセンスの不正使用を防ぐため、ライセンス管理モジュールによってシステムの時刻が常にモニターされています。そのためシステムの時計を操作し、日付を戻して製品プログラムを使用すると、ライセンス期限をごまかす不正操作とみなされライセンスが無効になることがあります。

1-3. オプション機能の追加／削除

1. オプション機能の追加／削除

インストール時に選択しなかった機能は後からインストールすることができます。

インストールに使用した iso ファイルを再度開き、DPT_TD_Setup.exe を再度実行します

セットアップウィザードが起動します。
「セットアップの種類の選択」ダイアログで、追加したい機能を選択します。また、削除したい機能はチェックを外します。

現在ディスクにあるファイル (11)			
thinkdesign	2017/10/25 20:22	ファイル フォルダー	
autorun.inf	2017/10/11 3:56	セットアップ情報	
cdrom.ico	2017/09/29 1:21	アイコン	
DPT_TD_Setup.exe	2017/10/19 0:25	アプリケーション	
readme_chs_td.htm	2017/10/06 19:50	HTM ファイル	
readme_de_td.htm	2017/10/06 19:50	HTM ファイル	
readme_en_td.htm	2017/10/06 19:50	HTM ファイル	
readme_fr_td.htm	2017/10/06 19:50	HTM ファイル	

主要製品

☒ TDProfessional

☐ TDMolding

☐ 他のすべての製品

コンバーター

☐ TDXchangeReader

☐ TDirect

アドオン

☐ ANSYS

☐ V15.0

☐ V16.2

☐ V17.0

☐ Coordinates Label

2. 機能の説明

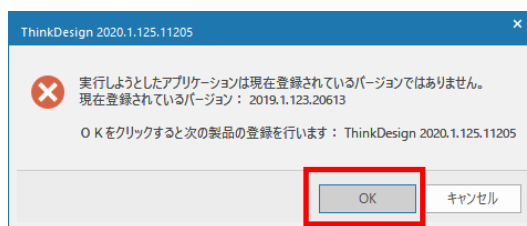
各機能の説明は次の通りです。

機能	説明
TDProfessional	TDProfessional (TDEducation) を使用するときを選択します。
TDMolding	日本では販売していません。
他のすべての製品	TDProfessional (TDEducation) 以外の製品を使用するときを選択します。
TDXchangeReader	TDXchangeReader (CATIA V5, Parasolid, 等ダイレクトコンバーター)
TDirect	旧 thinkdirect (CATIA V5, Parasolid, Pro/E ダイレクトコンバーター)
ANSYS V15.0	ANSYS Workbench 用プラグイン (V15.0)
ANSYS V16.2	ANSYS Workbench 用プラグイン (V16.2)
ANSYS V17.0	ANSYS Workbench 用プラグイン (V17.0)
Coordinates Label	点の座標値注記機能
API	API ドキュメントとサンプル

1-4. バージョン切り替え

複数の異なったバージョンがインストールされている場合、起動できるのはそのうちの1つのバージョンのみです。

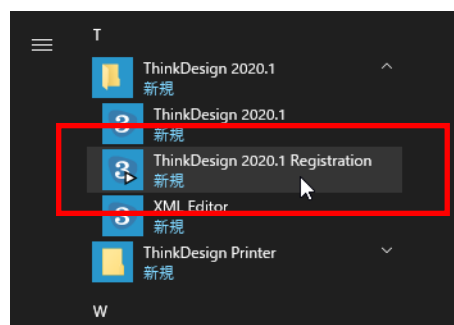
起動対象でないときにバージョン 2020(以降)を起動しようとした場合は右のメッセージが表示されます。



「OK」をクリックすると、そのバージョンの登録作業を行います。登録作業が終了すると、そのバージョンが起動対象になるので、あらためてデスクトップのアイコンなどから起動します。

なお、スタートメニューから

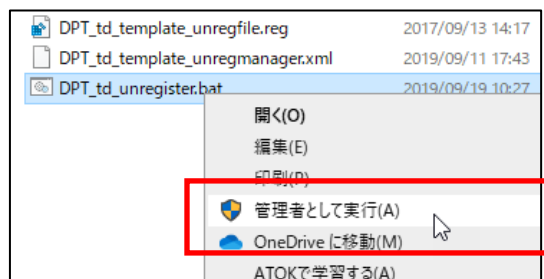
ThinkDesign <バージョン> Registration
を選択すると、そのバージョンへの登録(切り替え)作業のみを行います。



また、起動対象をバージョン 2020(以降)から 2019 以前に変更する場合は、まずバージョン 2020(以降)のインストールフォルダーから、次のファイルを

C:\Program Files\think3\<バージョン>\tools\install\DPT_td_unregister.bat

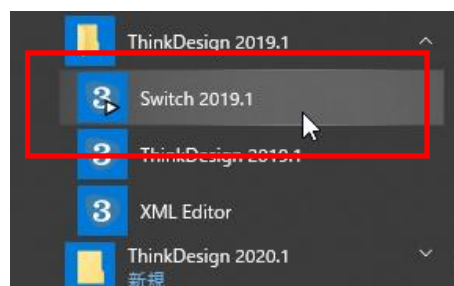
右クリックして、「管理者として実行」します。(右図)
これでこのバージョンの登録が外れます。



続いて起動したいバージョンに付属の switch.exe で、そのバージョンの登録作業を行います。

以前のバージョンの switch.exe は、スタートメニューから起動することができます。

なお、起動する各バージョンには、対応するライセンスが必要です。バージョン切り替え時には対応するライセンスがあるかどうかご確認ください。



1-5. よくあるお問い合わせ

1. サポートしているグラフィックカードは？

グラフィックカードは、NVIDIA 社製 Quadro シリーズをご使用ください。それ以外のハードウェアをご使用になった場合、設定をどう変えても解決できない問題が残る可能性があります。また旧 ATI 社（現 AMD 社）のハードウェア、特に旧 RADEON シリーズはきちんと動作いたしませんので、ご使用にならないようお願いいたします。

NVIDIA 社製ハードウェアを使用する場合は、ドライバーの設定で think3 を選択するか、選択肢が無い場合は、「バッファフリップモード」で「ブロック転送を使用する」を選択してください。

NVIDIA 社製ハードウェア用ドライバーは以下のページからダウンロードすることができます。

最新ドライバーダウンロードページ:

<http://www.nvidia.co.jp/Download/index.aspx?lang=jp>

通常、最新バージョンのドライバーをご使用いただいで問題ありません。



NVIDIA 社製以外のハードウェアをご使用の場合で、画面表示に何らかの問題がある場合は、以下の方法をお試しください。

1. 最新のドライバーをインストールする

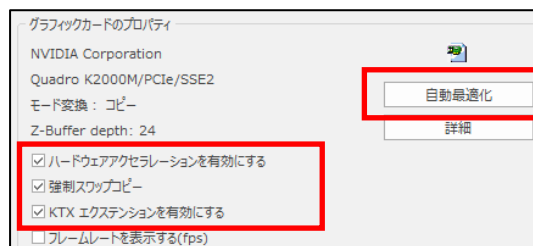
ご購入のコンピュータのメーカー、またはグラフィックカードベンダーの Web サイトなどから最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてみてください。一般的に、新しいドライバーほど不具合が解消されている可能性が高くなっています。

2. 製品内で設定を変更する

システムオプション→グラフィックス→グラフィックカード にて「自動最適化」ボタンを押してみてください。また、「強制スワップコピー」「KTX エクステンションを有効にする」オプションの設定を変えてみてください。

3. ハードウェアアクセラレーションを切る

「ハードウェアアクセラレーションを有効にする」オプションのチェックを外してみてください。



2. インストールが途中で終了する

インストールの初期にインストーラーが終了してしまうことがあります。

インストールの初期には、ThinkDesign の稼働に必要なプログラムがインストールされますが、その過程のログがシステムのテンポラリーフォルダーに次のファイル名で記録されます：

DPT_TD_バージョン_ビルド_Prerequisites_日付_時刻.log

(例：DPT_TD_2019_1_20118_Prerequisites_20190125_094524.log)

このログファイルにエラーが記録されていないかご確認ください。

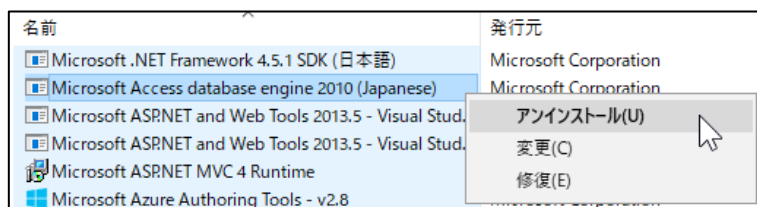
例えば、2017 以前の旧バージョンがインストールされている一部の環境に 2018 (以降) をインストールしようとすると、Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable のインストールに失敗することがあります。この場合、このファイルには次のように記録されます。

Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable - SP2 (x64) : not installed

Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable - SP2 (x64) : installation in progress

Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable - SP2 (x64) : **installation failed**

この問題を回避するには、「Microsoft Access database engine 2010(Japanese)」を一度アンインストールして再度 ThinkDesign のインストールをお試しください。



3. 日本語で起動しない

日本語でインストールしたにもかかわらず、まれに日本語で起動できない問題が報告されています。また、一度でも日本語以外の言語でインストールした後は、そのPCでは、何度インストールしてもデフォルトの起動言語を日本語にすることはできません。

これは、デフォルトの起動言語の情報はレジストリに記録されており、製品のインストール／アンインストールなどでは書き換わらないものがあるためです。この問題を解決するには、レジストリ情報ごと製品をアンインストールし、インストールし直す必要があります。以下のように操作します。

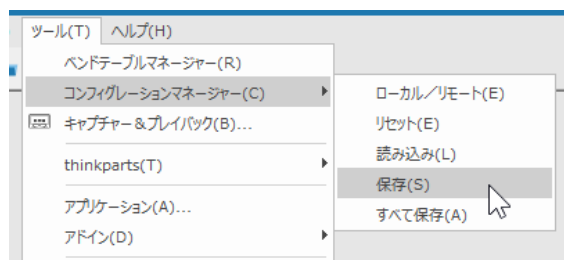
1. 「設定」の「アプリ」から当該バージョンをアンインストールする
2. レジストリエディタを起動し、次のキーを削除する
 - HKEY_CURRENT_USER_¥Software¥think3¥thinkdesign¥<バージョン>
 - HKEY_CURRENT_USER_¥Software¥think3¥thinkteam¥<バージョン>
 - HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥think3¥thinkdesign¥<バージョン>
 - HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ think3¥thinkteam¥<バージョン>
3. 再度インストールする

レジストリ操作は、間違えるとOSの動作に影響を与える重要な操作です。レジストリ操作に自信の無い場合は、システム管理者の方など、操作に習熟した方にご相談ください。操作を間違え、問題が発生しても弊社ではその責を負いかねますので、ご了承ください。

4. 旧バージョンの設定を新バージョンに移行するには？

旧バージョンで使用していた各種設定(オプション、キーボードショートカット、スタイル、書式等)は、コンフィグレーションマネージャーを使用して新バージョンへ移行させることができます。

コンフィグレーションマネージャーは、製品起動後、何もドキュメントを開いていない状態で ツール→コンフィグレーションマネージャー 以下からアクセスすることができます。



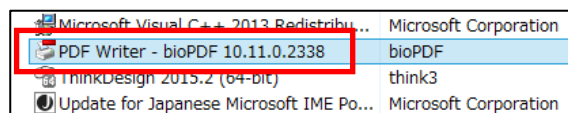
「すべて保存」では設定をすべてファイルに保存します。

「保存」から「オプション」を選択すると、保存したい項目を個別に指定することもできます。

移行先(新バージョン側)では、「読み込み」を選択し、保存した t3c ファイルを指示します。設定を別のPCに移動する場合は、t3c ファイルと共に作成されたフォルダーも一緒に別のPCまで移動させてください。

5. ThinkDesign Printer とは？

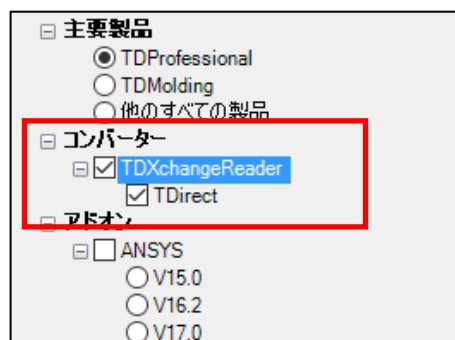
ThinkDesign をインストールすると、「ThinkDesign Printer」が同時にインストールされます。これは、bioPDF 社 (<http://www.biopdf.com>) が提供する PDF 出力プリンターで、2次元環境からの PDF 出力に利用されます。



6. TDXchangeReader と TDirect(旧 thinkdirect)

ThinkDesign ではダイレクトコンバーター(読み込み)として、TDXchangeReader が使用されます。また、書き込みには古いコンバータープログラムの TDirect が使用されます。読み込み・保存の双方を行うためには、双方のインストールが必要です。通常はインストール時に双方を選択してインストールしてください。

なお、TDirect のライセンスは、ASF/ASP 形式の TDXchangeReader のライセンスに含まれます。(永久ライセンス(PL)のライセンスには含まれません。)



7. コンフリクトするソフトウェアはありますか？

ファイル共有ソフトウェア ownCloud をインストールすると、インストール後は ThinkDesign が起動できなくなる問題が報告されています。



この問題は、インストールされている「Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable」をアンインストールすることで解消いたします。（この問題は ownCloud のアンインストールでは解決いたしません。なお、ownCloud をインストールしないのであれば、「Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable」がインストールされていても ThinkDesign の稼働には問題ありません。）

また、株式会社ミロク情報サービス社製の SOXBOX NX または Avast Software 社製のアバストアンチウィルスがインストールされている場合、ThinkDesign が起動できなくなる問題が報告されています。SOXBOX NX では ThinkDesign を監視対象から除外することで、アバストアンチウィルスでは設定で「レピュテーション機能」を無効にし、ThinkDesign の起動を許可することで回避することができます。

その他、以下のソフトウェアがインストールされている場合、PC 起動直後の 1 回目の起動（のみ）に失敗することがある問題が報告されています。

- ・Logicool 社製 SetPoint ・MediaFire 社製 MediaFire Desktop
- ・Adobe 社製 Creative Cloud ・Able Tech srl 社製 ARXivar

この現象が発生した場合、タスクマネージャーより 1 回目起動中の ThinkDesign (tdesign.exe) を終了すると、2 回目以降の起動には問題ありません。また、上記ソフトウェアをアンインストールすることでも、問題が解消いたします。（Adobe 社製 Creative Cloud は、起動の設定を手動起動に変更し、ThinkDesign 起動後に手動でスタートさせることでも現象を回避することができます。）

なお、特定のフォルダーへの書き込みを監視・禁止する機能（ウィルスバスターの「フォルダシールド」など）を使用する場合は、ThinkDesign に対して動作を許可するよう設定してください。

8. もう使用しない旧バージョンはアンインストールしていいですか？

特定のバージョンをアンインストールすることは可能ですが、以下の注意点があります。

1. ThinkDesign プリンター

特定のバージョンをアンインストールすると、システムにインストールされた「ThinkDesign Printer」も同時にアンインストールされます。



ThinkDesign Printer がアンインストールされると、2 次元環境からの PDF 出力ができなくなります。ThinkDesign Printer は単独でインストールすることができないため、回復には何れかのバージョンの再インストール（またはインストールの修復）が必要です。

2. 最初にインストールしたバージョンのアンインストール

現在の ThinkDesign には、その PC に最初にインストールしたバージョンをアンインストールすると、他のバージョン用のレジストリも一部削除してしまうという問題があります。

この問題により一部レジストリが削除されたバージョンを起動すると、起動時にレジストリの修復が行われますが、完全には修復されず、thinkparts のコマンドや、アセンブリアナライザーなど一部のコマンドが動作しない状態になります。

回復には使用するバージョンの再インストールが必要です。

9. Reshape の起動の問題

現在、Reshape のコマンドが起動しない問題が確認されています。それぞれの対策をお試しください。

1. コマンドを選択しても何も起こらない

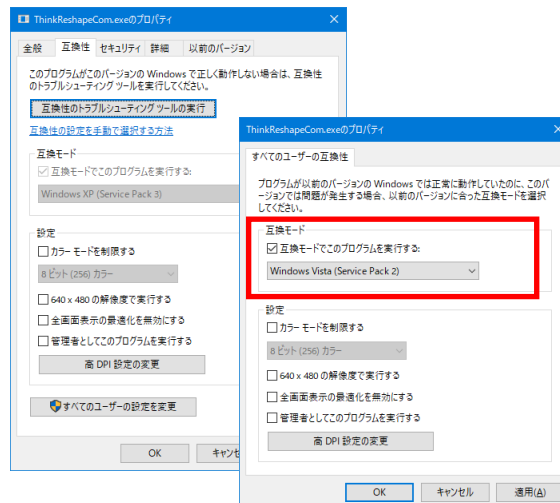
Reshape のコマンドを選択しても何も起こらない問題が報告されています。

この場合、次のファイルを右クリックしてプロパティを表示し、

C:\Program Files\think3\<バージョン>\thinkdesign\ext-plugins\thinkreshape\ThinkReshapeCom.exe

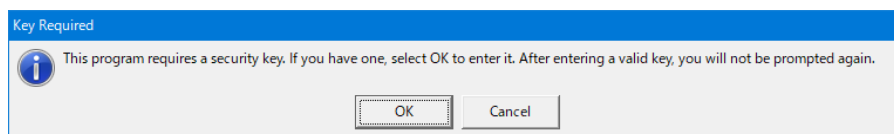
互換性タブで「すべてのユーザーの設定を変更」をクリックします。

「互換モード」ドロップダウンリストから Windows XP (Service pack 3) または、Windows Vista (Service Pack 2) を選択します。



2. Reshape のコマンド起動時にエラーメッセージが表示される

日本ユニシス・エクセリューションズ株式会社製の CADMEISTER が起動している場合、次のメッセージを表示して



Reshape のコマンドが起動しない問題が報告されています。

この問題は、CADMEISTER より先に ThinkDesign を起動するか、または CADMEISTER を終了すると解消するようです。

なお、本件に該当する「Reshape のコマンド」は次のコマンドです。

挿入／曲線／メッシュ上の曲線

挿入／曲線／メッシュの特徴線

挿入／曲線／特殊曲面／自動パッチ処理

修正／メッシュ／不適切な面の削除

修正／メッシュ／穴埋め

修正／メッシュ／スムージング

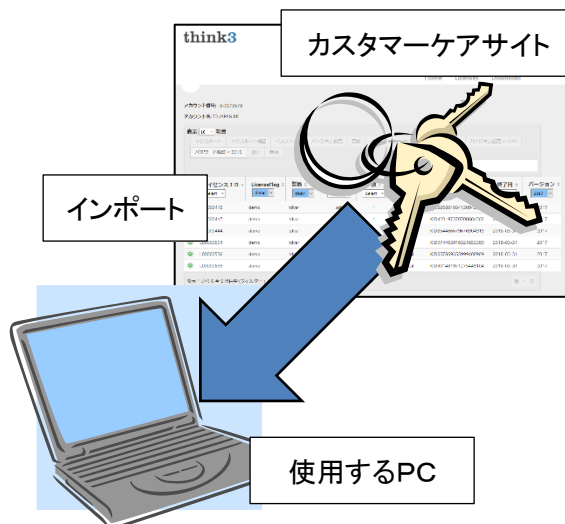
2. ライセンス

2-1. ライセンスについて

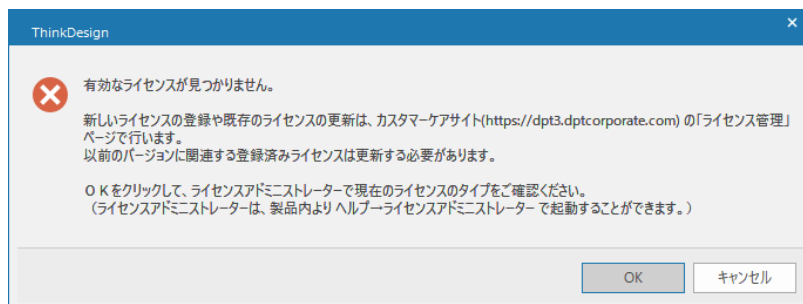
製品のライセンスはインターネット経由でカスタマーケアサイトからお使いのPCに取得（インポート）して使用します。

製品プログラム自体は何台のPCにインストールしても構いませんが、未使用のライセンスを取得（インポート）して初めて製品が使用可能になります。

ThinkDesign のライセンスが取得されると、ご使用のPC固有の情報と合わせて「キーID」が生成されます。「キーID」は 18 桁の数字で、ライセンス適用後に、Sentinel Admin Control Center (ACC) で確認することができます。



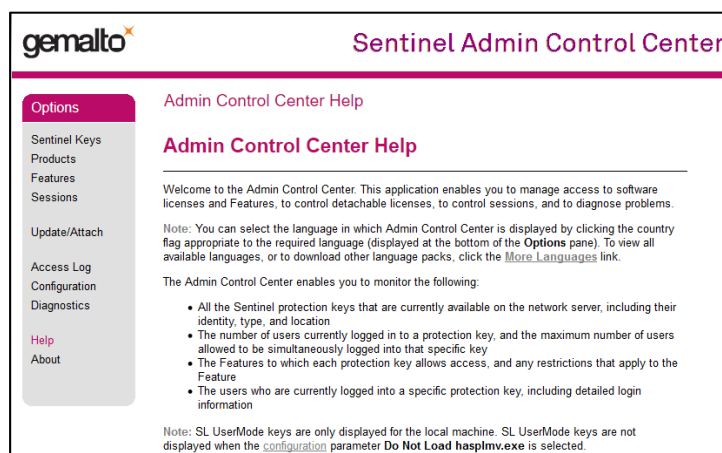
ThinkDesign の製品プログラムをインストールした後、ライセンスの無い状態で起動しようすると、次のダイアログを表示します。「OK」をクリックすると、ACC を起動します。



ACC は、Microsoft Edge などのブラウザーに表示されます。

ACC はブラウザーのアドレス欄に以下の文字列を入力しても起動します。

<http://localhost:1947>



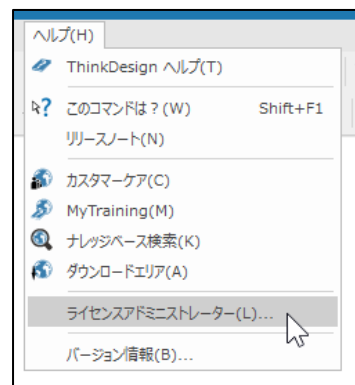
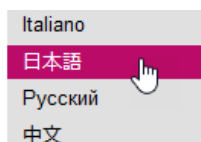
なお、ACC はブラウザー内に表示されますが、ブラウザーがインターネットにアクセスしているわけではありません。ACC はそのPC内の情報を表示しています。

また、ACC は次のショートカットからも起動することができます。

C:\Program Files\think3\<バージョン>\common\Admin_Control_Center.url

ライセンス入力後は、ThinkDesign 起動後、
「ヘルプ → ライセンスアドミニストレーター」
からも起動することができます。

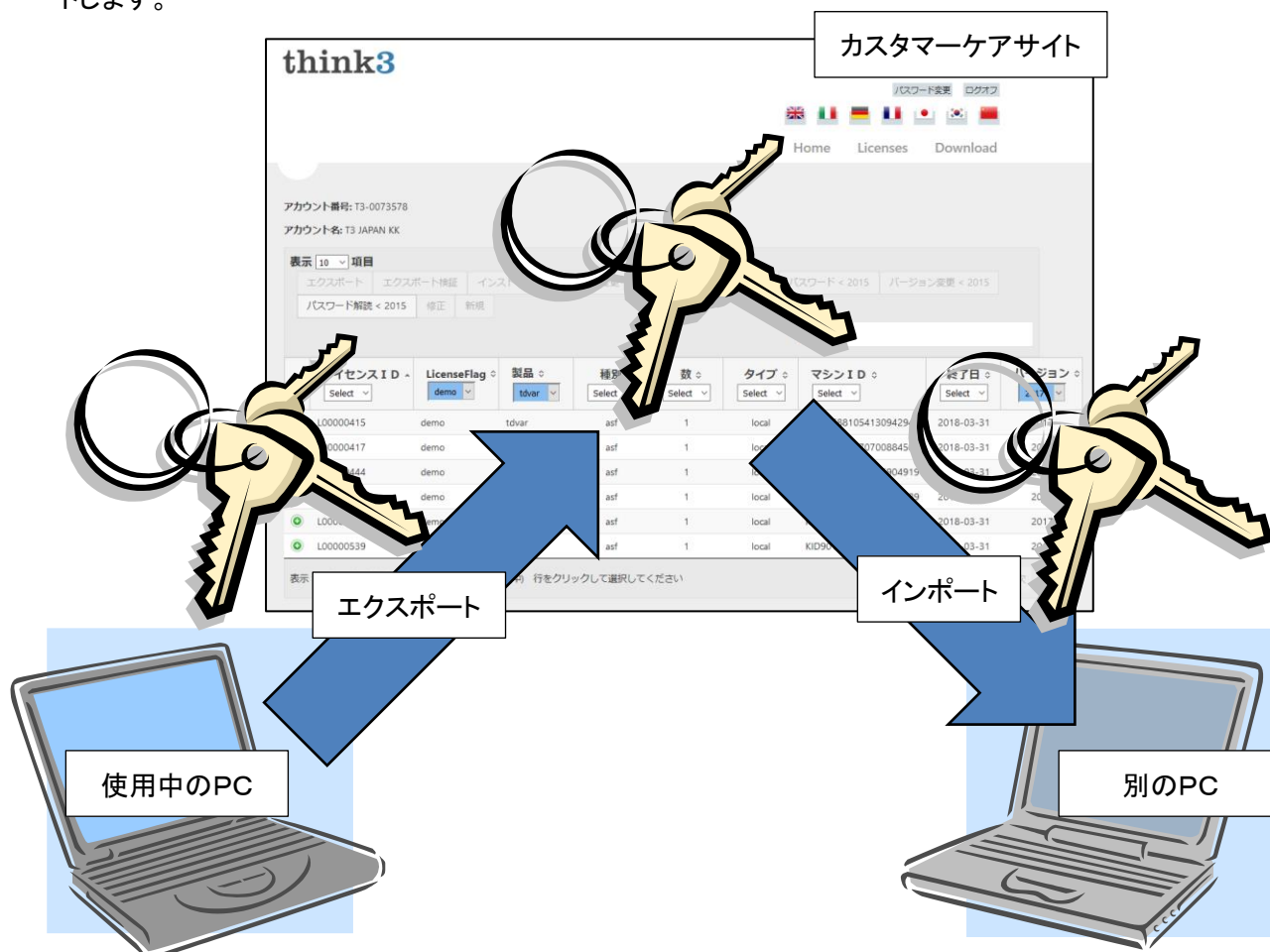
なお、ACC は左下の「Languages (言語)」より日本語
表示に切り替えることができます。



キーIDは、ライセンス入力後、ACC 画面左の「オプション」にて「Sentinel キー」を選択すると確認することができます。



ライセンスはカスタマーケアサイトを経点として別のPCに移動することができます。
使用中のPCからカスタマーケアサイトへライセンスをエクスポートして未使用に戻し、別のPCでインポートします。



2-2. ライセンスの取得

1. アカウントの開設

シンク・スリー製品をご購入いただくと、カスタマーケアサイトにお客様の会社専用のアカウントが作成されます。このお客様専用アカウントは、お客様の「会社名」と「会社メールアドレス」で登録するもので、このアカウントにログインすると、ソフトウェアのダウンロードや、ライセンス操作、お問い合わせの送付などを行うことができます。

各アカウントの下には、カスタマーケアサイトにログインするユーザーを複数設定することができます。

作成されたアカウントにログインするためのログイン情報は次のようなメールでお送りしています。

T3Japan 様

いつもお世話になっております。

弊社カスタマーケアサイト:DPT3Care サイト(<http://dpt3.dptcorporate.com/>)へのユーザー登録が完了しましたので、お知らせいたします。

ログイン情報は以下の通りです。

ユーザー名: (お客様のメールアドレス)

パスワードは、ログインページの「Recover if you forgot password」ボタンより設定していただけます。
詳細につきましては、下記「製品インストールガイド」の「2-6. よくあるお問い合わせ」をご参照ください。

製品インストールガイド: <ftp://ftp.t3-japan.co.jp/tdExtra/InstallGuide/InstallGuide.pdf>

技術的なご質問は、ログイン後「お問い合わせ」よりお送りいただくことができます。

以上、よろしくお願いいたします。

シンクスリー・カスタマーケアチーム

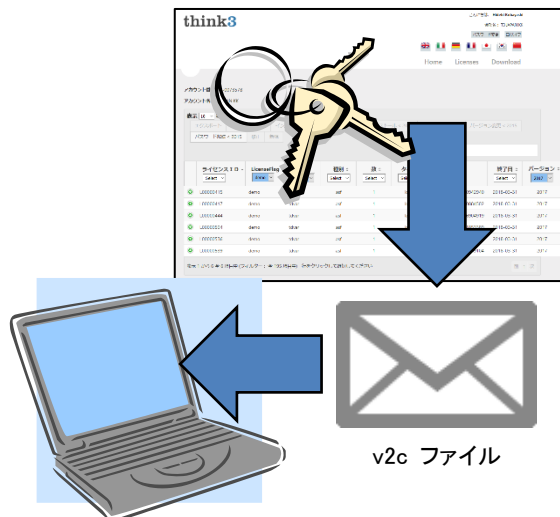
初回ログイン時は、上記案内に沿ってログインパスワードをご設定ください。

2. ライセンスの取得

カスタマーケアサイトでライセンスの取得操作を行うと、ライセンスがメールで配信されます。
お使いのPCで、ACC にてライセンスを入力するとライセンスが有効になります。

重要:

同一のPCに複数のライセンスを取得する場合は、1つ1つ順番に行います。
(先に1つ目のライセンスの処理を以下の手順4まですべて完了させた後、2つ目のライセンスの処理に進みます。)



1. c2v ファイルの作成

ThinkDesign インストール時にデスクトップに拡張子 c2v のファイルが作成されます。このファイル中にお使いのPCの情報が含まれています。この c2v ファイルがあることを確認します。

c2v ファイルは、次のプログラムをダブルクリックして実行しても作成することができます。

C:\Program Files\think3<バージョン>\common\utilities\DPTGetC2V.exe

※正しく c2v ファイルを作成するには管理者権限が必要です。

このプログラムを実行するとコマンドプロンプトが起動し、次のように表示されます。c2v ファイルがデスクトップに作成されます。

```
Generate C2V file
Copyright (c) 2013-2019 DPTLab S.r.l. All rights reserved.

c2v file generated: C:\Users\ユーザー名\Desktop\P C名.数字.c2v
続行するには何かキーを押してください . . .
```

何かキーを押すと続行し、コマンドプロンプトが閉じます。

2. カスタマーケアサイトへログイン

カスタマーケアサイト

(<https://dpt3.dptcorporate.com>) へログインします。

ログイン後、右上の「Licenses」を選択します。
お持ちのライセンスの一覧が表示されます。



3. ライセンスの取得

取得したいライセンスを選択します。
「マシンID」欄にダミーのID(「KIDABCDEFGH」等)が表示されているものが未使用(取得可能)のライセンスです。

「インストール」ボタンが選択可能になるので、クリックします。



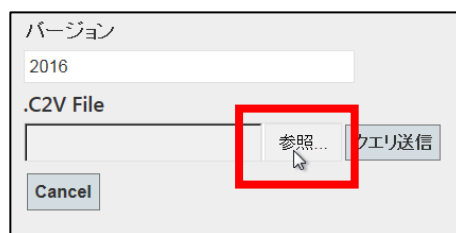
注意:

ブラウザがポップアップをブロックする場合は、許可(「常に許可」)してください。



選択したライセンスの情報が表示されます。

下部の「.C2V File」欄の「参照」ボタンを選択し、手順1で作成した c2v ファイルを選択して送信します。



(重要) ライセンスは送信した c2v ファイルに基づいて取得されます。

(重要) 間違ったファイル(違うPCの c2v ファイル等)を送信しないよう注意してください。

ライセンスが取得され、メールで送信されたことを示す次のメッセージが表示されます。

ライセンスを生成しました。

.v2c ファイルが、以下の御社の登録メールアドレスまで送信されますので、ご確認ください:

※メールは @dptcorporate.com ドメインから送付されます。

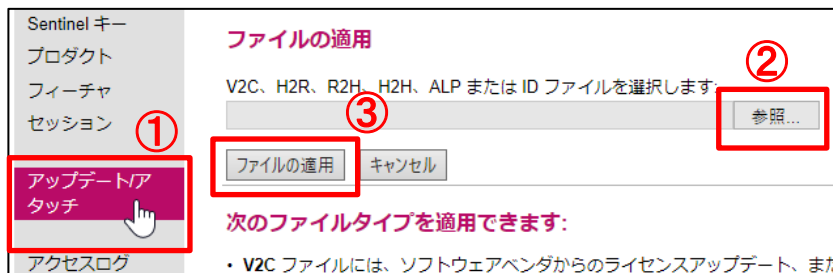
@dptcorporate.com からのメールが受信可能かどうかご確認ください。

右上の「Licenses」をクリックしてライセンス一覧に戻り、ページを再表示します。「マシンID」欄に「KID」で始まる適切な「キーID」が入力されていればライセンスの取得が完了しています。

4. ライセンスの適用

取得したライセンスは会社のメールアドレスとしてご登録のアドレスまでメールで送付されます。無くさないよう大切に保管してください。メールの件名は「EMS - ライセンス証書」で、ライセンスは拡張子 v2c のファイルとして添付されています。v2c ファイルを任意のフォルダーへ保存します。

v2c ファイルは、ACC にて、「アップデート／アタッチ」の「参照」から v2c ファイルを選択し、「ファイルの適用」ボタンで適用します。これで完了です。



2-3. ライセンスの移動

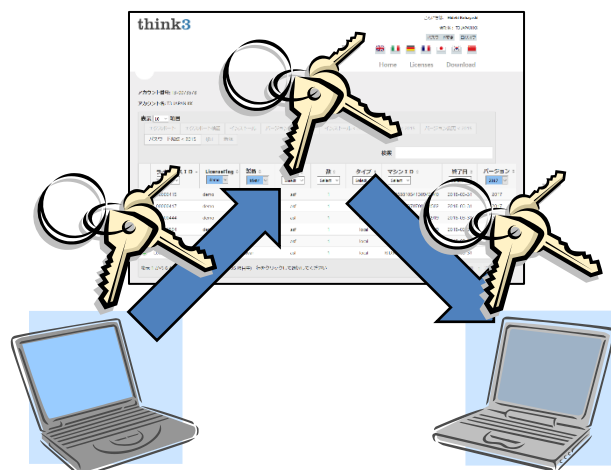
1. 移動方法

あるPCで使用中のライセンスを別のPCへ移動させることができます。

現在使用中のライセンスを一度カスタマーケアサイトに返却(エクスポート)して未使用に戻し、移動先のPCで取得(インポート)します。

重要:

同一のPCから複数のライセンスをエクスポートする場合は、1つ1つ順番に行います。
(先に1つ目のライセンスの処理を以下の手順2の4まですべて完了させた後、2つ目のライセンスの処理に進みます。)

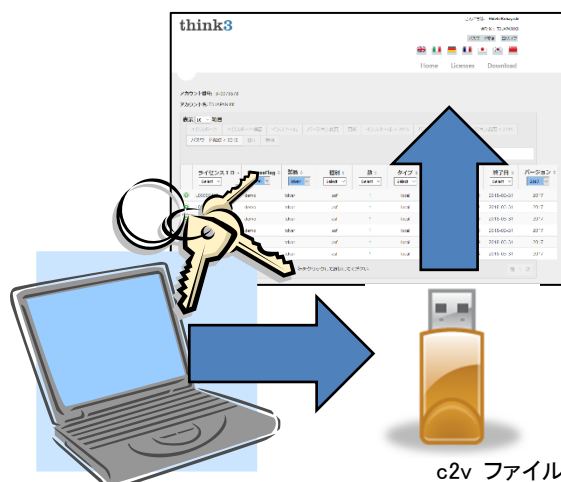


2. ライセンスの返却

カスタマーケアサイトでライセンスの無効化(キャンセル)用のファイルを作成します。

次に、お使いのPCにてライセンスを実際に無効にし、結果をカスタマーケアサイトへアップロードするとエクスポート(返却)処理が完了します。

ライセンスの返却操作は次のようにして行います。



1. カスタマーケアサイトへログイン

カスタマーケアサイト (<https://dpt3.dptcorporate.com>) へログインします。
ログイン後、右上の「Licenses」を選択します。

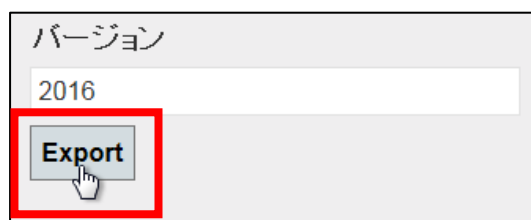
2. エクスポートするライセンスの選択

エクスポートするライセンスを選択して「エクスポート」ボタンを選択します。

(重要) 間違ったライセンスをエクスポートしてしまわないよう、キーIDやライセンスの種類などを十分に確認してください。(重要)



選択したライセンスの情報が表示されます。
下部の「Export」ボタンを選択します。



ライセンスキャンセル用のファイルがメールで送信されたことを示す次のメッセージが表示されます。

ライセンスをエクスポートしました。

.v2c ファイルが、以下の御社の登録メールアドレスまで送信されますので、ご確認ください:

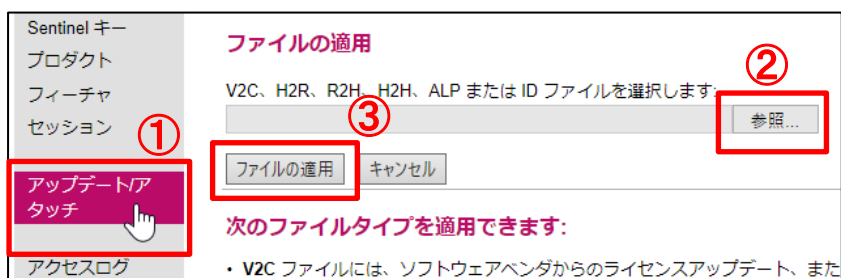
※メールは @dptcorporate.com ドメインから送付されます。

@dptcorporate.com からのメールが受信可能かどうかご確認ください。

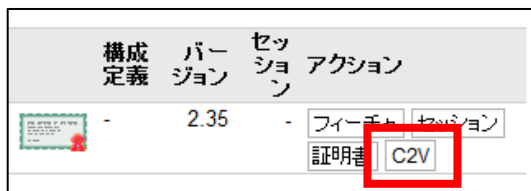
3. ライセンスのキャンセル

ライセンスキャンセル用のファイルは会社のメールアドレスとしてご登録のアドレスまでメールで送付されます。無くさないよう大切に保管してください。メールの件名は「EMS - ライセンス証書」で、キャンセル用のファイルは、拡張子 v2c のファイルとして添付されています。

ライセンスをエクスポートしたいPCで ACC を起動し、「アップデート/アタッチ」の「参照」から v2c ファイルを選択し、「ファイルの適用」ボタンで適用します。

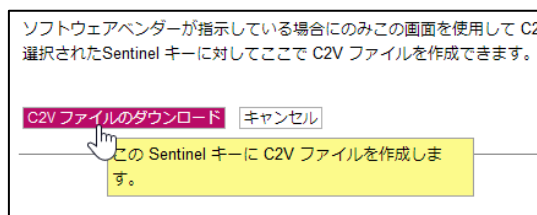


続いて、ACC の「オプション」から「Sentinel キー」を選択し、エクスポートしたいライセンスの「C2V」ボタンを選択します。キーIDが複数表示される場合は適切なIDを選択してください。



※正しく無効化されたライセンス(キーID)には「プロダクト」ボタンが表示されなくなります。

「C2V ファイルのダウンロード」ボタンから、新しい c2v ファイルを保存します。



注意:

ライセンス取得時にも拡張子 c2v のファイルを使用しました。ここで作成する c2v ファイルと同じ拡張子ですが、中身・使用目的が異なりますので、混同しないようご注意ください。

4. カスタマーケアサイトへアップロード

前の手順で保存した c2v ファイルをカスタマーケアサイトにアップロード(返却)して、エクスポート処理が完了します。

カスタマーケアサイトへログインし、エクスポートしたいライセンスを選択します。「エクスポート検証」ボタンを選択します。



「参照」ボタンより c2v ファイルを選択して、送信します。



右のメッセージが表示され、エクスポート処理が完了します。

ライセンスを正常にエクスポートしました。
ライセンスは別の PC にインストールすることができます。

エクスポートされたライセンスは、「マシンID」欄がダミーのキーID（「KIDABCDEFGH」等）に戻ります。「Licenses」タブをクリックして情報を更新してご確認ください。

（重要） c2v ファイルを作成しただけでは返却処理は完了しません。

（重要） カスタマーケアサイトへアップロードしてはじめて返却処理が完了します。

5. ライセンスのインポート

ライセンス移動先のPCでライセンスをインポートします。方法は通常のインポート方法と同じです。「2. ライセンスの取得」をご覧ください。

重要:

複数のバージョンを取得したライセンスをエクスポートした場合、一度のエクスポート(返却)処理ですべてのバージョンのライセンスがエクスポートされます。

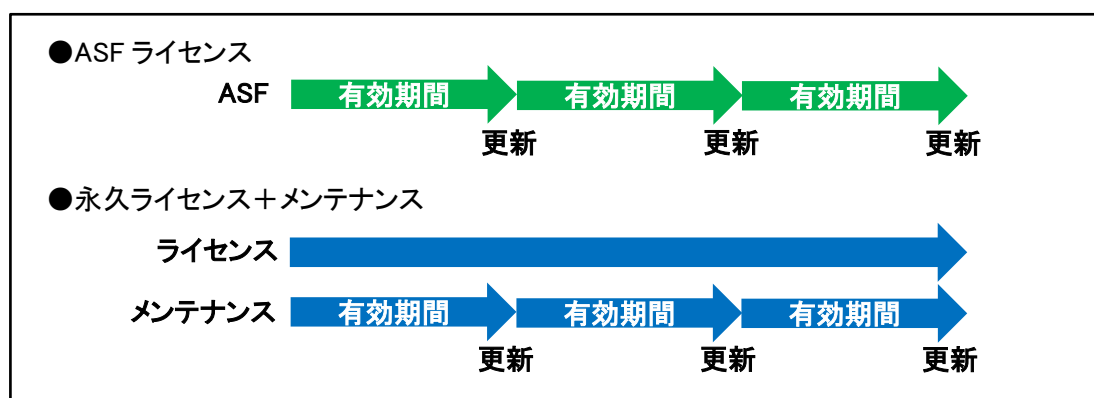
このライセンスを別のPCでインポートした場合は、当該ライセンスは最新バージョンのみがインポートされます。別のバージョンを使用する必要がある場合は、必要なバージョンのライセンスもあらためて取得します。(2-4. ライセンスの更新 の 2. ライセンスの更新 をご覧ください。)

2-4. ライセンスの更新

1. 永久ライセンスとメンテナンス

ThinkDesign のライセンスは、「ASF ライセンス」と「永久ライセンス(PL)」の2種類があります。ASF ライセンスは、期限を区切って製品の使用権をご購入いただくタイプのライセンスで、製品は「ライセンス」のみですが、永久ライセンスはこれと異なり「ライセンス」と「メンテナンス」の2つの製品で構成されています。

永久ライセンスは「ライセンス」のご購入で製品を使用することができるようになりますが、「ライセンス」のみでは使用可能なバージョンが固定されます。そして「メンテナンス」のご購入で、そのメンテナンスが有効な間は、ライセンスを最新のバージョンに更新することができるようになります。また、任意のバージョンのライセンスを取得することもできます。(メンテナンスの有効期間を過ぎると、ライセンスの移動・更新ともにできなくなります。)



メンテナンスは、更新のご注文書が弊社に到着後にすべての事務処理が終了した後、有効になります。この期間、およそ1週間程度かかることがあります。

なお、ASF ライセンスは永久ライセンスのメンテナンス相当分を含んでいます。

※永久ライセンスは、2017 年いっぱいまで新規販売を終了いたしました。

現在は、一定の条件に合致した既存のお客様が増設のためにのみご購入いただけます。

2. ライセンスのバージョン更新

カスタマーケアサイトでライセンスの更新(バージョン更新)を行うと、ライセンスがメールで配信されます。お使いのPCで、ACCにてライセンスを入力すると更新完了です。(ASF、ASP、永久ライセンス共)

ライセンスのバージョン更新では、ライセンスをその時点の最新のバージョンに更新するほか、任意のバージョンのライセンスを取得することもできます。

なお、特定のバージョンの製品をご使用いただくためには、お使いのPCに、そのバージョンの「製品プログラム」と「ライセンス」の双方が必要です。お使いのPCに双方がインストール／入力されていることを、よくご確認ください。

- 重要：あるバージョンの製品を使用するには
- ・そのバージョンの「製品プログラム」をPCにインストールする
 - ・そのバージョンの「ライセンス」をPCに入力する

重要：

ライセンスの処理は、1つ1つ順番に行います。

(新規にライセンスを取得して、すぐに別のバージョンも追加して取得する場合でも、最初のバージョンの処理をすべて完了した後、次のバージョンの処理に移ります。)

ライセンスの更新(バージョン変更)は次のようにして行います。

1. カスタマーケアサイトへログイン

カスタマーケアサイト

(<https://dpt3.dptcorporate.com>)へログインします。

ログイン後、右上の「Licenses」を選択します。



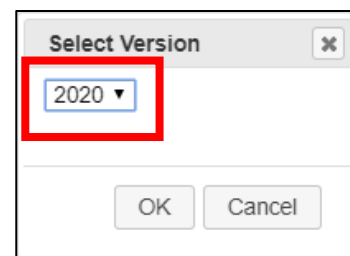
2. 更新するライセンスの選択

更新したいライセンスを選択して、「バージョン変更」ボタンを選択します。

(重要) 間違ったライセンスを更新してしまわないよう、キーIDやライセンスの種類などを十分に確認してください。(重要)

取得するバージョンを選択して、「OK」ボタンをクリックします。取得したライセンスがメールで送信されたことを示すメッセージが表示されます。

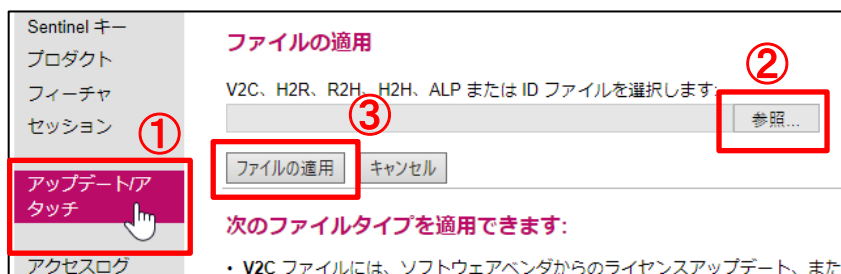
※メールは @dptcorporate.com ドメインから送付されます。@dptcorporate.com からのメールが受信可能かどうかご確認ください。



3. ライセンスの適用

更新したライセンスは、件名「EMS – ライセンス証書」のメールの添付ファイルとして拡張子 v2c のファイルで、会社のメールアドレスとしてご登録のアドレスまで配信されます。無くさないよう大切に保管してください。v2c ファイルを任意のフォルダーへ保存します。

v2c ファイルは、ACC にて、「アップデート／アタッチ」の「参照」から v2c ファイルを選択し、「ファイルの適用」ボタンで適用します。これで完了です。



重要:

「バージョン変更」では、同じバージョンのライセンスを複数回取得できてしまいます。

しかし実際には取得は1度で良く、何度も取得する必要はありません。

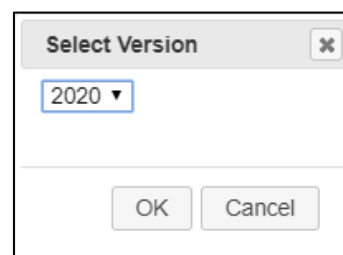
特定のバージョンを取得する度に、システムは v2c ファイルを作成してメールにて送付します。

送付された v2c ファイルは、

「すべて」

「発行順序通りに」

適用する必要があります。



したがって、同じバージョンを複数回取得してしまった場合は、送付された v2c ファイルをすべて順序通りに適用してください。v2c ファイルは順序通りにしか適用できないため、途中で未適用の v2c ファイルがあった場合、それ以後の v2c ファイルの適用ができなくなってしまいます。

未適用の v2c ファイルがあった場合には、例えば、ライセンスエクスポート用にシステムが送付した v2c ファイルが、以前の v2c ファイルが未適用のために適用できない、などの問題が発生する可能性があります。

この場合は、次のようなメッセージが表示されます。

アタッチ/アップデートに失敗しました。	
エラーの説明	HASP_UPDATE_TOO_NEW Sentinel プロテクションキーのアップデートカウンタとは順序が 違うアップデートカウンタを持った V2C ファイルをインストールし ようとしています。V2C ファイルでの最初の値が Sentinel プロ テクションキーでの値より大きくなっています。
エラーコード	55

3. ASF ライセンスの次年度更新

カスタマーケアサイトでライセンスの更新操作を行うと、ライセンスがメールで配信されます。
 お使いのPCで、ACC にてライセンスを入力すると有効になります。
 (「2-2. ライセンスの取得」の「2. ライセンスの取得」もご覧ください。)

1. カスタマーケアサイトへログイン

カスタマーケアサイト (<https://dpt3.dptcorporate.com>) へログインして「Licenses」を選択します。

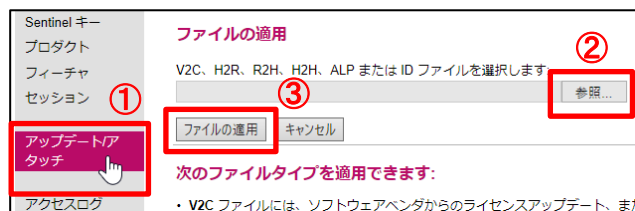
2. ライセンスの更新

キーIDやライセンスの種類から、更新したいライセンスを選択します。
 「更新」ボタンが選択可能になるので、クリックします。
 ライセンスが取得され、メールで送信されます。無くさないよう大切に
 保管してください。



3. ライセンスの適用

通常のライセンスの取得操作と同様に、
 ライセンスを ACC にて適用します。



※前期間のライセンスが有効な間は「更新」ボタンが表示されたライセンスもエクスポートすることができますが、「更新」ボタンが表示されたライセンスは、まず本手順で更新するようにしてください。
 前期間のライセンスの期限が切れている場合は、「更新」のみが可能です。

2-5. ユーザーの追加

カスタマーケアサイトへログインするユーザーを複数作成することができます。
ただし、お客様ご自身でユーザーを追加することはできません。ユーザーの追加をお考えの場合は、お手数ですが「お問い合わせ」よりその旨お知らせください。

ユーザーの登録には次の情報が必要です。ご連絡の際にお知らせください。

メールアドレス：

姓：

名：

※姓名はローマ字表記もご連絡ください。

2-6. よくあるお問い合わせ

1. ライセンス操作に関する問い合わせ先はどこですか？

ライセンス操作に関するご質問は、必ずカスタマーケアサイト内の「お問い合わせ」からお送りください。

何らかの理由でカスタマーケアサイトにアクセスできない場合は、カスタマーケアサイトログインページの「アクセスできないときは、、、」の「こちら」よりメールにてご連絡ください。

アクセスできないときは・・・
お名前、会社名、問題の説明を記載して、
こちらまでメールにてご連絡ください。

2. カスタマーケアサイトのユーザー名とパスワードを忘れてしまった。

パスワードを忘れてしまった場合は、カスタマーケアサイトログインページの

「[Recover](#) パスワードを忘れた場合」より、パスワードのリセットを行うことができます。
(ページが英語表示だった場合、ページ右方の日本の国旗をクリックすると日本語表示になります。)

「Recover」のリンク先ページからは、パスワードリセット用の URL を記載したメールを送信することができ、新たにパスワードを設定することができます。

The screenshot shows a login form titled 'Log in'. It has fields for 'Username (Email Address)' and 'Password', and a 'Log in' button. In the top right corner, there are two flags: the UK flag and the Japanese flag. The Japanese flag is highlighted with a red box. At the bottom of the form, there is a link that says 'Recover パスワードを忘れた場合', which is also highlighted with a red box.

※パスワードリセット用のメールは @dptcorporate.com ドメインから送付されます。
@dptcorporate.com からのメールが受信可能かどうかご確認ください。

ご登録のメールアドレスがわからなくなってしまった場合は、上記1の「アクセスに関する問題」からご連絡ください。

3. ライセンスを更新(購入)したい。

すべてのライセンス／メンテナンスの購入や更新に関しては、製品をご購入の販売代理店または、info.jp@t3-japan.co.jp までご連絡ください。

カスタマーケアサイト内の「お問い合わせ」は、主として製品購入後の技術的なご質問を承る窓口となっており、「お問い合わせ」より更新などのご依頼をいただいても承ることができません。
ご理解を賜れば幸いです。

4. PCが起動しなくなりました

「PCが壊れて起動しなくなった」または、「ライセンスをエクスポートせずにPCごと破棄した」などの理由で、当該のPCから通常の手順でライセンスをエクスポートすることが不可能になった場合は、カスタマーケアサイトの「お問い合わせ」からその旨をご連絡ください。当該のライセンスを未使用に戻して再び別のPCで使用可能にするには、特別な処理が必要です。そのための手順などをご案内いたします。

5. ログインユーザー名を変更することはできますか？

はい、可能です。

ログインユーザー名（登録メールアドレス）、または登録会社名を変更したい場合は、カスタマーケアサイト内の「お問い合わせ」よりその旨お知らせください。

6. ライセンス取得時などのメールはどのアドレスへ送信されますか？

ライセンス取得時、またはエクスポート時には、お客様の「会社のメールアドレス」まで v2c ファイルが送信されます。通常このアドレスは、ライセンス管理者としてご登録の方のメールアドレスと同じアドレスが設定されています。

なお、メールは @dptcorporate.com ドメインから送付されます。@dptcorporate.com からのメールが受信可能かどうかご確認ください。

7. c2v ファイルについて

c2v ファイルには次の2種類があります。

1. インストーラーが作成するもの（=DPTGetC2V.exe で作成するもの）
2. ACC で作成するもの

前者はライセンス取得時に使用します。後者はライセンスのエクスポート時（エクスポートの検証時）に使用します。拡張子は同じ c2v ですが、中身・用途とも違いますので、混同しないようご注意ください。

重要：

インストーラーやDPTGetC2V.exe で作成する c2v ファイルには、そのPCのハードウェアを特定する情報が含まれています。この情報はPCのマザーボードとハードディスクの情報に基づき計算されています。

そのため、修理してマザーボードを交換するなど、大きくハードウェア構成が変わったPCを再度使用する場合は、必ず新しいハードウェアに基づいた c2v ファイルを新たに作成してご使用ください。古いハードウェア情報に基づいた c2v ファイルを使用してライセンスを取得してしまった場合、そのライセンスはPCに適用することができません。

また、ライセンスを保持したままPCを修理し、マザーボード交換などを行った場合、PC内のライセンスは認識されなくなります。もしもこのような状態になった場合は、詳細な状況をカスタマーケアよりご連絡ください。

8. ライセンスの入力には管理者権限が必要ですか？

DPTGetC2V.exe を使用して c2v ファイルを作成する時には管理者権限が必要です。管理者権限の無いユーザーで c2v ファイルを作成した場合、正しい c2v ファイルが作られません。

一方、その他のライセンス操作（v2c ファイルの適用、ACC による c2v ファイルの作成）には管理者権限は必要ありません。

9. 自分のPCで利用可能なライセンスを確認するには？

ACCを開くと、「Sentinel キー」欄に複数の項目(キー)が表示されることがあります。これは、過去にそのPCで取得したことのあるライセンスのほか、ネットワーク内に存在する ThinkDesign がインストールされたPC、フローティングライセンスサーバーなども表示されるためです。

オプション	TPW530 で使用可能な
Sentinel キー	# プロダクト名およびベン
プロダクト	1 TDProfessional
フィーチャ	2 TDXchangeReader
セッション	3 tdirectcatianw

自分のPCから利用可能なライセンスの情報だけを表示するには、「プロダクト」を選択します。この項目を選択すると、自PC上の有効なライセンスとフローティングライセンスサーバー上で利用可能なライセンスのみが表示されます。

10. ライセンスが認識されないことがある

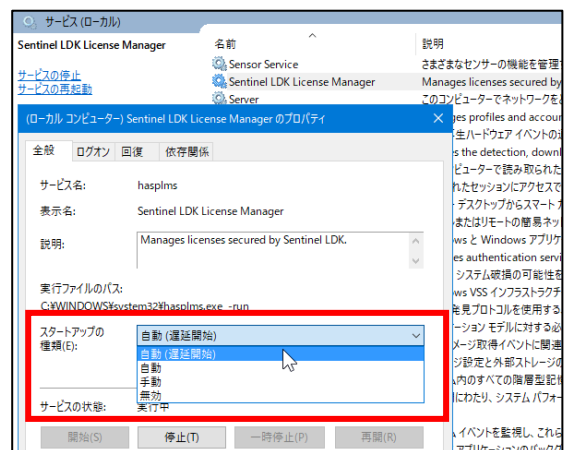
【重要】本件はバージョン 2020 で改善され、発生する可能性が低くなっています。【重要】

Windows10 上で Windows Update を適用した後などに、一部の環境でライセンスが認識されなくなる問題が確認されています。ライセンシングプログラムの提供元のジェムアルト社によると、Windows Update など適用したタイミングで、OS 上でのドライバー読み込みタイミングが変わることがあり、その影響でライセンス管理プログラムがライセンス情報の格納場所へのアクセスができなくなることが原因のようです。

この問題への対策としては、ライセンス管理プログラム「Sentinel LDK License Manager」の起動方法をデフォルトの「自動」から「自動(遅延開始)」に設定することが、効果があるとされています。

設定は、コントロールパネルの管理ツールから「サービス」を開き、Sentinel LDK License Manager のプロパティから「スタートアップの種類」を「自動(遅延開始)」に設定してPCを再起動します。

その他、ThinkDesign の再インストールで問題が解決したとの事例もあります。



なお、Windows Update とは関係無く、何らかの理由で Sentinel LDK License Manager が実行されていないケースが確認されています。Sentinel LDK License Manager が実行されていない場合は、やはりライセンスは認識されません。Sentinel LDK License Manager は、通常スタートアップの種類が「自動」で、状態が「実行中」になっているのが正しい状態です。ライセンスが認識されない場合は、正しい状態になっているかどうかご確認ください。

(Sentinel LDK License Manager が実行されていない場合は、ACC も開くことができません。)

参考：Sentinel LDK License Manager のアンインストールとインストール

C:\Program Files\think3\バージョン\common フォルダでコマンドプロンプトを開き、次のコマンド: haspdinst.exe -r -fr -kp -purge を入力すると、Sentinel LDK License Manager のみをアンインストールします。また、次のコマンド: haspdinst.exe -i を入力すると、Sentinel LDK License Manager のみをインストールします。ThinkDesign の再インストールでも効果がなかった場合にお試しください。

Sentinel LDK License Manager は ThinkDesign 以外のソフトウェアもインストールすることがあります。「-purge」オプションを付けてアンインストールすると、他のソフトウェアがインストールしたものも含めて、すべての Sentinel LDK License Manager をアンインストールします。

11. ライセンス取得時にエラーが表示される

ライセンス取得時に c2v ファイルをアップロードした際、次のようなエラーが表示されることがあります。

Something went wrong. It's impossible to generate the license.

ライセンス取得

次のライセンスを取得します。

このようなエラーは、アップロードした c2v ファイルが適切でなかった場合に表示されます。
c2v ファイルは、内部は xml ファイルになっており、任意のテキストエディタ(メモ帳など)で開くと、SL-AdminMode と SL-UserMode の2つの記載があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
```

```
<hasp_info>
```

```
  <host_fingerprint type="SL-AdminMode" crc="0">SL-Admin mode の記載</host_fingerprint>
```

```
  <host_fingerprint type="SL-UserMode" vendorid="110137" crc="XXXXXXXXXX">SL-user mode の記載
```

```
</host_fingerprint>
```

```
</hasp_info>
```

c2v ファイルの例

例えば、管理者権限の無いユーザーで作成した c2v ファイルは、SL-Admin mode の記載が空になっています。行そのものが無いような場合もあります。このような c2v ファイルからは適切にライセンスを取得することができません。

12. v2c ファイルの適用に失敗する

ライセンス取得時などに ACC で v2c ファイルを適用した際、次のエラーが表示されることがあります。

送付された v2c ファイルは、
「すべて」
「発行順序通りに」
適用する必要があります。

アタッチ/アップデートに失敗しました。	
エラーの説明	HASP_UPDATE_TOO_NEW Sentinel プロテクションキーのアップデートカウンタとは順序が 違うアップデートカウンタを持った V2C ファイルをインストールし ようとしています。V2C ファイルでの最初の値が Sentinel プロ テクションキーでの値より大きくなっています。
エラーコード	55

このエラーは、v2c ファイルの適用漏れがある状態で、次の(新しい)v2c ファイルを適用しようとした場合に
表示されます。このエラーが表示された場合、未適用の v2c ファイルから順に適用していくとエラーなくす
べての v2c ファイルを適用することができます。

v2c ファイルは忘れずにすべて適用していただくようお願い申し上げます。

なお、ACC の「Sentinel キー」欄から、該当するキーID
の「証明書」を開くと、そのキーIDに関して、これまで
にいくつの v2c ファイルが適用されているかを確認
することができます。



過去に送付された(未適用の)v2c ファイルを、削除してしまったなどの理由で既に失ってしまった場合は、
次の手順で状況を回復することができます。

1. c2v ファイルの保存

ACC の「Sentinel キー」欄から、該当するキーIDの「C2V」ボタンをクリックします。

「C2V ファイルのダウンロード」ボタンから c2v
ファイルを保存します。



2. c2v ファイルのアップロード

カスタマーケアサイトにて問題のライセンスを
選択し、「V2CP」ボタンを選択します。

前の手順で保存した c2v ファイルをアップロー
ドします。



※本手順に必要な c2v ファイルを保存するためには、ThinkDesign 2018.1
(ACC runtime 7.63) 以降のインストールが必要です。

3. v2cp ファイルの送付と適用

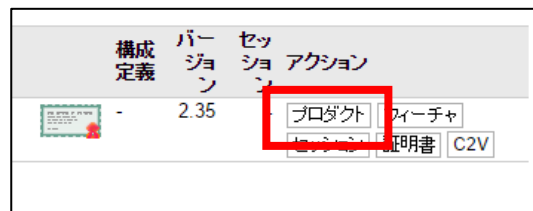
拡張子 v2cp のファイルがメールで送付されるので、ACC の「アップデート/アタッチ」から適用しま
す。この v2cp ファイルには、未適用の v2c ファイルの内容がすべて含まれています。(はじめに適
用に失敗した v2c ファイルの内容も含まれています。)

13. キーIDが複数表示される場合、現在有効なものは？

ACC の「Sentinel キー」欄に表示される項目のうち、「場所」が「ローカル」となっているものが、そのPCで取得されている(いた)ライセンスです。

キーIDは、現在有効なもののほか、過去に取得したことのあるライセンスの情報も表示されます。

これらのうち、現在有効なライセンス(キーID)には、「プロダクト」ボタンが表示されます。



14. PC名の変更はライセンスに影響しますか？

いいえ、パソコンの名前(PC名)は任意の時点で任意のものにご変更いただけます。(ただし、PC名には日本語文字列はご使用にならないでください。)

なお、PC名を変更すると、DPTGetC2V.exe で作成する c2v ファイルは中身が少し変わります。PC名の変更は、現在使用中のライセンスの使用、バージョン更新、期間更新には影響を与えませんが、次回取得(インストール)時には、新たに c2v ファイルを作成し直してご使用ください。

15. エクスポートできないライセンスについて

アカデミックライセンスはエクスポートすることができません。

これらのライセンスをエクスポートする必要が生じた際は、お手数ですがカスタマーケアサイトの「お問い合わせ」よりその旨ご連絡ください。

参考：

アカデミックライセンスは「LicenseFlag」が「educational」に設定されています。カスタマーケアサイトでご確認いただけます。

	ライセンスID ▾	LicenseFlag ▾	製品 ▾
	Select ▾	Select ▾	Select ▾
+	L000G1a7H	educational	tdprofessional
+	L000G1a7H	educational	tdprofessional

16. ライセンスの種類を教えてください

以下のようなライセンスがあります。

製品名	製品表記 (カスタマーケアサイト)	プログラムコード
TD Professional	tdprofessional	UP
TD Styling	tdstyling	US
TD Tooling	tdtooling	UT
TD Engineering	tdengineering	UE
TD Drafting	tddrafting	UD
TD Base	tdbase	BO
TD XchangeReader	tdxchangereader	AH
thinkAPI-GSM	thinkapigsm	HZ
TD Direct	tdirectrw	IK/XP/IJ

また、ライセンスの契約形態により以下の種別があります。カスタマーケアサイト内では、「種別」欄に表示されます。

種別	略称	ライセンス 期間	ライセンスの バージョン	バージョン更新 & サポート*1 利用権	備考
年間	ASF	1年	あり	ライセンスに含む	
年間	ASP	1年	あり	ライセンスに含む	PL からコンバートした ASF
1ヶ月	MSF	30日	あり	なし	プレミアムライセンス等で利用
3日	TSF	3日	あり	なし	暫定ライセンス等で利用
永久	PL	期限なし	あり	メンテナンスに含む	

*1: カスタマーケアサイト内の各種サービス

17. ライセンスの種類を教えてください その2

カスタマーケアサイトの「Licenses」では、LicenseFlag 欄でライセンスの種類を区別することができます。代表的なものを以下に記載します。「インストール」はライセンスの「取得(インポート)」を意味します。

LicenseFlag	インストール	エクスポート	説明
regular	可	可	通常のライセンス
free	可	不可	特別ライセンス(特定の条件で無償にて発行されます)*1
premium	可	不可	プレミアムライセンス
educational	可	不可	アカデミックライセンス
broken	可	可	強制的にエクスポートしたライセンス
demo	不可	不可	販売代理店用ライセンス

*1: TDViewerPlus(無償版)、thinkAPI-GSM が含まれます。

18. プレミアムライセンスとは？

プレミアムライセンスとは、これまでにご購入いただいた永久ライセンスのメンテナンス、または ASF ライセンスをすべて欠けることなくご更新いただいているお客様（＝プレミアムカスタマー）に特別に発行されるライセンスです。お持ちのライセンスと同種・同数で、期間30日のライセンスが発行されます。使用可能な期間が短いだけで、機能は通常のライセンスと変わりませんので、通常のライセンスと全く変わらずにお使いいただけます。

次のような特徴があります。

- LicenseFlag が「premium」で、種別に「msf」と表示される
- ライセンスを取得（有効化）した日から30日間使用可能（取得方法は通常のライセンスと同じ）
- エクスポートできない（使用するPCは変更できない）
- 「元」のライセンスがフローティングの場合は同数のローカルライセンスとして発行される（プレミアムライセンスに「フローティング」はありません）
- すべてのプレミアムライセンスの期限が切れている場合に、ライセンス／メンテナンスの更新のタイミングで年1回補充されます。

プレミアムライセンスは、間違って取得してしまった場合（違うPCの c2v ファイルで取得してしまった場合など）、回復することはできませんので、取得時は十分ご注意ください。また、プレミアムライセンスはバージョンを変更することができません。

一部のライセンスのメンテナンスを停止するなどして、「お持ちのライセンスのすべてにメンテナンスがある」状態では無くなった時点で、すべてのプレミアムライセンスが無くなります。

19. ライセンスのエクスポートに制限がありますか？

以下の制限があります。

●ライセンスのエクスポート

カスタマー種別	ライセンス		最大回数（回／年）
	バージョン	種別	
Premium	2015 以降	PL	制限なし
		ASF／ASP	
	2014 以前	PL	2
		ASF／ASP	3
Active	2015 以降	PL	1
		ASF／ASP	2
	2014 以前	PL	1
		ASF／ASP	2

※エクスポート回数はライセンスごとにカウントされます。PCが壊れたときなどの強制的なライセンスのエクスポート（ライセンス解放）も1回とカウントされます。回数はメンテナンス／ライセンスの更新時にリセットされます。なお、カスタマーケアサイトにてライセンスの詳細を展開するとこれまでのエクスポート回数を確認することができます。PL はライセンス解放されるとASPになります。

※PCが壊れた場合、壊れたPCを修理した後に「ライセンス解放」を行うことなく回復することができる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

※カスタマー種別がご不明な際はお問い合わせください。

20. 製品購入時にはどんなメールが届くのですか？

次のようなメールをお送りしています。

●ユーザー登録メール

初めて製品をご購入いただいたお客様へは、カスタマーケアサイトへのログイン情報をお知らせする以下のようなメールをお送りしています。

T3JAPAN Santarou Shinku 様

いつもお世話になっております。
弊社カスタマーケアサイト: DPT3Care サイト (<http://dpt3.dptcorporate.com/>) へのユーザー登録が完了しましたので、お知らせいたします。
ログイン情報は以下の通りです。

ユーザー名: (お客様のメールアドレス)

パスワードは、ログインページの「Recover if you forgot password」ボタンより設定していただけます。
詳細につきましては、下記「製品インストールガイド」の「2-6. よくあるお問い合わせ」をご参照ください。

製品インストールガイド: <ftp://ftp.t3-japan.co.jp/tdExtra/InstallGuide/InstallGuide.pdf>

以下略

●製品登録メール

新しいライセンスが登録された際にお送りしているメールです。

T3JAPAN (T3-00XXXXX) 様、

アカウント名: T3JAPAN (T3-00XXXXX)

注文日: 2017-01-01

ライセンス ID	マシン ID	製品	タイプ	数	開始日	終了日
L00123456	KIDABCDEF GH	tdprofessional.pl	local	1	2017-01-01	2017-12-31
L00123456	KIDABCDEF GH	tdprofessional.plss	local	1	2017-01-01	2017-12-31

ライセンス管理の詳細につきましては下記「インストールガイド」の「2. ライセンス」をご覧ください。
(<http://ftp.t3-japan.co.jp/tdExtra/InstallGuide/InstallGuide.pdf>)

think3 製品の最新のリリースは、下記カスタマーケアサイトのダウンロードエリアからダウンロードすることができます。
(<http://dpt3.dptcorporate.com/Download>)

下記 URL からカスタマーケアへアクセスして、ライセンスを取得してください。
(<http://dpt3.dptcorporate.com/license>)

なお、ご注文いただいたライセンスと登録されたライセンスに相違がないかどうかを必ずご確認ください。
ライセンスの種類には、ASF(年間使用料)、PL(永久)、PLSS(永久ライセンスのメンテナンスライセンス)等の種類があります。

PLSS ライセンスはライセンス本体ではないため、カスタマーケアサイトに新しいライセンスが増えるわけではありません。
詳しくは上記インストールガイドの「2-4. ライセンスの更新」をご確認ください。

以下略

本メールは送信専用アドレスからお送りしています。内容に関するお問い合わせは、カスタマーケアサイトの「お問い合わせ」よりお問い合わせください。

21. ライセンスが登録されたとのメールが届いたが新しいライセンスが無い

メンテナンスライセンスの処理が開始される際にもライセンス登録をお知らせするメールをお送りしています。製品欄に「.plss」とあるのがメンテナンスライセンスです。

メンテナンスライセンスはライセンス本体ではありませんので、カスタマーケアサイトにライセンスが増えるわけではありません。

このメールが到着後、少なくとも約1週間以内にメンテナンスの効力が有効になり、ライセンスの「更新」が可能になります。

T3JAPAN (T3-00XXXXX) 様、

アカウント名: T3JAPAN (T3-00XXXXX)
注文日: 2017-01-01

ライセンス ID	マシン ID	製品	タイプ	数	開始日	終了日
L00123456	KID123456789012345678	tdprofessional.plss	local	1	2017-01-01	2017-12-31

ライセンス管理の詳細につきましては下記「インストールガイド」の「2. ライセンス」をご覧ください。
(<ftp://ftp.t3-japan.co.jp/tdExtra/InstallGuide/InstallGuide.pdf>)

think3 製品の最新のリリースは、下記カスタマーケアサイトのダウンロードエリアからダウンロードすることができます。
(<http://dpt3.dptcorporate.com/Download>)

下記 URL からカスタマーケアへアクセスして、ライセンスを取得してください。
(<http://dpt3.dptcorporate.com/license>)

なお、ご注文いただいたライセンスと登録されたライセンスに相違がないかどうかを必ずご確認ください。
ライセンスの種類には、ASF(年間使用料)、PL(永久)、PLSS(永久ライセンスのメンテナンスライセンス)等の種類があります。

PLSS ライセンスはライセンス本体ではないため、カスタマーケアサイトに新しいライセンスが増えるわけではありません。
詳しくは上記インストールガイドの「2-4. ライセンスの更新」をご確認ください。

本メールは送信専用アドレスからお送りしています。内容に関するお問い合わせは、カスタマーケアサイトの「お問い合わせ」よりお問い合わせください。

22. 「お問い合わせ」の使い方を教えてください

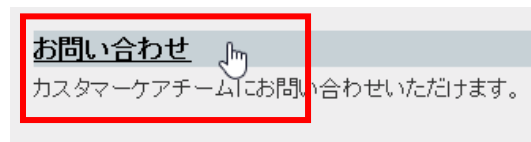
カスタマーケアサイトの「お問い合わせ」では、技術的なご質問を承っております。

カスタマーケアサイトにログイン可能なお客様（有効なライセンス／メンテナンスをお持ちのお客様）はご質問をお送りいただくことができます。

（製品購入や更新に関する営業的なお問い合わせは、製品をご購入の販売代理店、または、info.jp@t3-japan.co.jp までご連絡ください。）

1. 新しいお問い合わせの作成

カスタマーケアサイトにログインし、ホームページ左下の「お問い合わせ」を選択します。



「新規」ボタンを選択すると、新しいお問い合わせの作成画面になります。



新しいお問い合わせの作成画面では、以下を記入、または選択します。（必須項目）

説明： 内容の簡単な説明
 詳細： 内容の詳細
 アカウント名： 自動的に選択されます。
 担当者： 正しい担当者が選択されているかご確認ください。
 （【重要】ここで選択した担当者にメールが送付されます。）

その他の項目は必要に応じて適切なものを選択してください。（「問合せID」は新規お問い合わせ作成時に自動的に番号が振られます。）

ファイルの添付は「参照」ボタンから行います。

「Submit」ボタンを押すと新しいお問い合わせが作成されます。

F5 キーを押すなどしてページを再読み込みし、新しいお問い合わせの作成をご確認ください。

注意：一度にアップロードできるファイルは1つのみです。複数のファイルをアップロードする場合は、zip 等の形式で一つのファイルにまとめるか、複数回に分けて更新してください。
 また、次の半角文字を含んだファイル名はご使用いただけません： # % +

2. お問い合わせの更新

お問い合わせ項目を選択すると、その項目に関する「更新」と「履歴」ボタンを選択することができるようになります。
(もう一度選択すると選択を解除します。)

「更新」ではお問い合わせを更新することができます。

「更新」は、お問い合わせの追加情報をお送りいただく場合、新たにファイルをアップロードする場合、また、弊社からの回答に対するご返信などにご利用ください。

新規作成の時と同様「説明」と「詳細」を記載し、「Submit」ボタンを押すと更新されます。(説明欄、詳細欄とも必須入力項目です。)

F5 キーを押すなどしてページを再読み込みし、更新をご確認ください。

The screenshot shows a top navigation bar with buttons for 'PDF', '修正' (Correct), '新規' (New), '更新' (Update), and '履歴' (History). The '更新' button is highlighted with a red rectangular box. Below this are dropdown menus for 'タイプ' (Type) and '状態' (Status), both currently set to '選択' (Select). At the bottom, there are two tabs: 'General Request' and 'Open'.

The screenshot shows the '問合せID' (Inquiry ID) field with the value 'D00000610'. Below it is the '説明' (Description) section with a text input field containing '簡単な説明を記入します' (Enter a brief description). The '詳細' (Details) section has a larger text area with the placeholder '内容の詳細を記載します。' (Enter details of the content). At the bottom, there is a file upload section with a button 'ファイルを選択' (Select file) and the text '選択されていません' (Not selected). Below this are 'Submit' and 'Close' buttons.

3. お問い合わせの履歴

「履歴」ではお問い合わせのやりとりを一覧して表示することができます。
弊社からの回答などはこのページで確認することができます。

また、「履歴」の画面からは、お問い合わせに関してアップロードされたファイルをすべて確認することができます。

The screenshot shows a table with two rows. The first row is '作成日' (Created date) with the value '2016-10-03 04:36'. The second row is 'ファイル' (File) with the value 'sample1.zip' followed by links 'ダウンロード' (Download) and '削除' (Delete). The 'ダウンロード' and '削除' links are underlined.

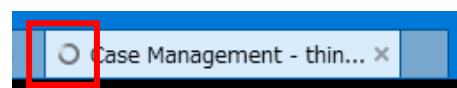
4. その他

お問い合わせ左端の「+」アイコンをクリックすると項目が展開され、お問い合わせの概要を確認することができます。

また、お問い合わせは同じ会社のユーザー間で共有されていますので、他のユーザーのお問い合わせを参照して、社内で情報を共有することができます。

The screenshot shows a table with two columns. The first column is '問合せID' (Inquiry ID) with a dropdown arrow. The second column shows a green circle with a white '+' icon and a hand cursor pointing at it, next to the inquiry ID 'D00000628'.

注意: インターネット・エクスプローラーをご使用の場合、新規お問い合わせを作成直後、タブの左に読み込み中を示す丸いアイコンが表示されます。このアイコンが表示されている間に文字入力をはじめると、正しくお問い合わせを送信できないことがあります。
このアイコンの表示が無くなり、「アカウント名」「担当者」欄に適切なものがリストされた状態で入力をはじめると新しいお問合せを作成することができます。ご注意ください。
なお、Chrome や Firefox といった他のブラウザではこのような制限は無いようです。



23. T3Japan サポートサービスの内容を教えてください

ASF ライセンス、永久ライセンスのメンテナンスには、カスタマーケアでの基本サポートが含まれています。T3Japan では、それに加えて電話による対応などを含んだ拡張サポートサービス(「T3Japan サポートサービス」)を提供しています。

基本サポートは ASF ライセンス、永久ライセンスのメンテナンスに付随しています。T3Japan サポートサービスはライセンス費やメンテナンス費と一体化した「バンドルパッケージ」として提供しております。(T3Japan サポートサービスは、T3Japan から直接購入する場合と、販売代理店経由で購入する場合があります。)

基本サポート、T3Japan サポートサービスでは、それぞれ以下のサービスが提供されます。

●基本サポート

- ・基本的なライセンス操作(ライセンスのインポート／エクスポート等)
- ・ライセンスの更新(ライセンスのバージョンの更新)
- ・カスタマーケアコンテンツの利用(e-Learning 教材等)
- ・製品プログラム、サービスパックなどのダウンロード
- ・ライセンスや製品の操作等に関する一般的な質問(カスタマーケアサイト内「お問い合わせ」の利用)

●T3Japan サポートサービス

- ・電話による問い合わせ対応
- ・リモートアクセスツールによるリモートサポート
- ・「スキルセッション」へのご招待
- ・製品プログラム、サービスパックなどのダウンロード代行
- ・オンサイトトレーニングやなどの特別価格での購入
- ・T3Japan tools の利用

※製品プログラム、サービスパックなどのダウンロード代行について。

ネットワーク環境や設定の問題等でカスタマーケアサイトからプログラムなどをダウンロードすることができない場合、その旨ご連絡いただければ代行してダウンロードして DVD 等のメディアにて送付いたします。

なお、T3Japan サポートサービス未契約の場合、「スキルセッションへのご参加」は有償にて承ります。

3. フローティングライセンス

3-1. はじめに

ThinkDesign のライセンスシステムは、ローカル・フローティング共に、Gemalto (旧 SafeNet) 社のシステムを使用しています。

フローティングライセンスのご使用にあたっては、以下の点にご注意ください。

- 同時に使用可能なのは1つのバージョンのみとなります。
- フローティングライセンスのサーバープログラムを稼働させるOSは、通常はサーバーOS (Windows Server 2019 等) をご使用ください。これは、Microsoft のライセンス規約により、クライアントOSでは同時アクセス可能なクライアント数に制限があるためです。
(ただし、Microsoft のライセンス規約に抵触しない程度の少数のクライアントでのご使用の場合は、クライアントOS (Windows10) もサーバーとしてご使用いただけます。)

以下が、ライセンスサーバーでサポートされるOSです。(対象バージョン: 2020.1.125.11216 以降)

Microsoft® Windows® Server 2019
 Microsoft® Windows® Server 2016
 Microsoft® Windows® Server 2012 R2 (64bit)
 Microsoft® Windows® Server 2008 R2 (64bit)
 Microsoft® Windows® 10

3-2. サーバーの設定

1. サーバープログラムのインストール

カスタマーケアサイトのダウンロードページの「CAD/2020」より、「Floating Licensing Installer」をダウンロードします。

CAD		
2020		
製品	説明	ダウンロード
ThinkDesign 2020 64bit	ThinkDesign 2020 公式リリース版。推奨バージョンです。 (SHA1=6A5A7F9BF140B5CED9E77FC93F601AA66C4213DD)	ダウンロード - 2 GB (DPT_TD_2020_1.11216.iso)
ユーティリティツール	バージョン 2020 用ユーティリティツール。 (SHA1=2721EEED27F379610CB28C9B9D45A83C60601E2)	ダウンロード - 19 MB (DPT_TDTools_2020_1.11216.iso)
Floating Licensing Installer	Floating Licensing Installer. (SHA1=EB2D66C2DF75A4583C7F025D883674232643E15B)	ダウンロード - 111 MB (DPT_Licensing_2020_1.11216.iso)

iso ファイルを任意のドライブにマウントし、DPT_Licensing_Setup.exe を実行します。
 インストール後は、ショートカット:

C:\Program Files\think3\バージョン>common\Admin_Control_Center.url
 から ACC を起動します。(ACC は ThinkDesign がインストールするものと同じです。)

注: フローティングライセンスのサーバープログラムは、ThinkDesign のインストールと同時にインストールされるため、ThinkDesign がインストールしてあれば、このプログラムのインストールは不要です。
 このプログラムは、いわゆるサーバー機などに ThinkDesign をインストールせず、フローティングライセンスのサーバープログラムのみをインストールするものです。

2. c2v ファイルの作成 & ライセンスの取得

通常のライセンスと同様に、インストール時にデスクトップに作成される c2v ファイルを用いて、カスタマーケアサイトにてライセンスを取得します。

取得方法は通常のライセンスと同様です。フローティングライセンスはタイプが「floating」になっています。

種別	数	タイプ	マシンID
Select	Select	floating	Select
asf	4	floating	KID08586967683846

なお、ThinkDesign と同様、次のプログラムを実行しても、c2v ファイルを作成することができます。

C:\Program Files\think3\<バージョン>\common\utilities\DPTGetC2V.exe

※正しく c2v ファイルを作成するには管理者権限が必要です。

3. ライセンスの送付

メールにてライセンスが送付されます。

メール中にライセンスが v2c ファイルとして添付されているので、任意のフォルダーに保存します。

4. ライセンスの適用

v2c ファイルは、ACC にて、「アップデート／アタッチ」の「参照」から v2c ファイルを選択し、「ファイルの適用」で適用することができます。



※ライセンスの追加／更新時も同様に v2c ファイルを適用します。

ライセンスサーバーを変更したい場合は、通常のライセンスと同様に、ライセンスのエクスポート／インポートで変更することができます。

5. バージョンアップ

フローティングライセンスも通常のローカルライセンスと同様、カスタマーケアサイトでバージョンを更新することができます。ただし、フローティングライセンスは、同時に使用できるバージョンが1つだけのため、あるバージョンを取得すると、他のバージョンはキャンセル(削除)されて使用できなくなります。なお、バージョンは、上げることも下げることもできます。

3-3. クライアントの設定

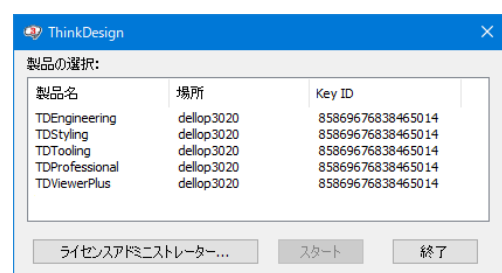
1. ThinkDesign のインストール

クライアントPCに ThinkDesign をインストールします。
クライアントPCで ThinkDesign を起動すると、自動的にサーバーを検索し、ライセンスを取得します。
(特別な設定は必要ありません。)

3-4. その他の設定など

1. 複数の製品の管理

複数の異なったキーIDの製品がサーバーで管理されている場合、ThinkDesign 起動時に右のような製品選択のダイアログが表示されます。(同じ製品でもメンテナンス期間が違うなどの理由で複数のキーIDに分かれることがあります。)

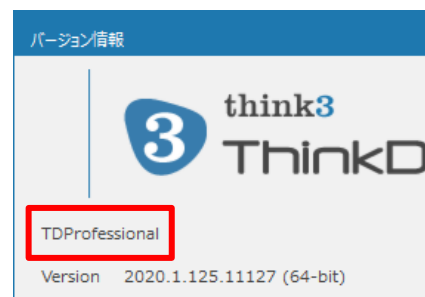


ダイアログにはサーバーで管理されているライセンスのほか、クライアントPCで取得されているライセンスがあればそれ表示されます。

使用したいライセンスをダブルクリックするか、選択して「スタート」ボタンを押します。

(注: サーバー上のライセンスとクライアント上のライセンスの種類が同じ場合は、クライアントのライセンスが優先的に使用され、製品選択ダイアログは表示されません。)

クライアントPCで、現在何のライセンスが取得されているかは、バージョン情報で確認することができます。
右図のように製品名が表示されます。



なお、ライセンスの詳しい使用状況は、「3. ライセンスの使用状況の確認」でご確認ください。

複数の製品がある場合に、製品選択のダイアログを表示せず、特定の製品のライセンスを取得することができます。

右図のように、デスクトップに作成されるショートカットに、「-bundle 製品名」を追加します。



「製品名」には、次のものを使用することができます。

TDProfessional、TDTooling、TDStyling、TDEngineering、TDDrafting、TDViewerPlus
(大文字小文字を区別します。)

参考: 「-english」と記載すると英語 UI で起動します。

2. ライセンス検索先の指定

【重要】通常はこの設定を行う必要はありません。【重要】

クライアントPCで次のシステム環境変数を設定すると、ライセンスの検索先を指定することができます。複数のライセンスサーバーがあり、参照先を限定したい場合などに設定します。

変数名: DPT_LIC_HOSTNAME

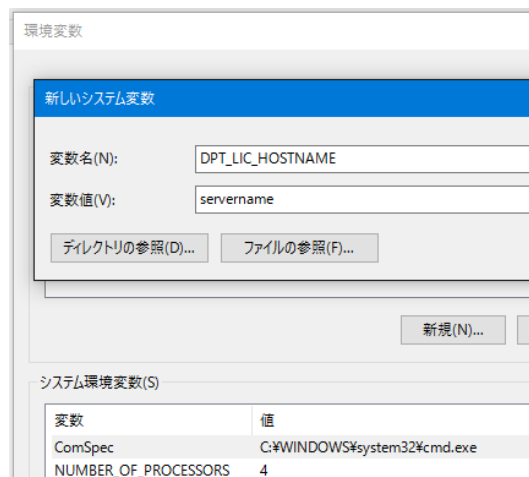
変数値: ライセンスサーバー名、または localhost

注: 変数値は IP アドレスでは指定できません。

この環境変数が設定されている場合、指定した名前のサーバーでのみライセンスが検索されます。

この変数を設定しない場合(デフォルト設定)は、ローカルライセンスとフローティングライセンスの双方を検索して使用します。

変数値に「localhost」と記載した場合は、ローカルのライセンスのみを参照し、フローティングライセンスは使用しません。



3. ライセンスの使用状況の確認

●サーバーでの確認方法:

ライセンスサーバーで ACC を起動し、「Sentinel キー」ページで「ローカル(自マシン)」欄を確認します。(Sentinel License Manager がインストールされている他のクライアントPCも表示されます。)

dellop3020 で使用可能な Sentinel キー									
#	場所	ベンダ	キー ID	キータイプ	構成定義	バージョン	セッション	アクション	
1	ローカル	DPT (110137)	85869676838465014	HASP SL AdminMode	-	7.60	2	プロダクト セッション	フィーチャ 証明書 C2V
2	TPW530	DPT (110137)	420197370700884502	HASP SL AdminMode	-	7.60	-	参照	ネットフィーチャ

「セッション」欄に現在接続中のクライアント数が表示されます。

「アクション」欄の「フィーチャ」ボタンでは製品ごとの使用状況を、「セッション」ボタンでは接続しているクライアントの一覧を確認することができます。

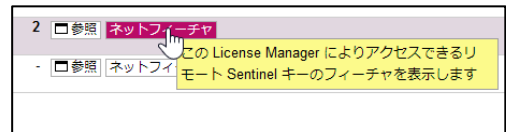
dellop3020 のセッション、キー 85869676838465014									
ID	キー	場所	プロダクト	フィーチャ	アドレス	ユーザ	マシン	ログイン時刻	タイムアウト
0000000C	85869676838465014	ローカル	132 TDProfessional	652 TDProfessional_2018.0	192.168.100.104	HKobayashi	TPW530:18028	金曜日 2月 16, 14:28:03	11:23:11 接続終了
0000000D	85869676838465014	ローカル	132 TDProfessional	652 TDProfessional_2018.0	192.168.100.111	hkobayashi	M4800:1192	金曜日 2月 16, 11:38:18	14:41:58 接続終了

#	キー	ベンダ	キー ID	場所	プロダクト	フィーチャ	セッション	有効期限	アクション
1	133 TDExchangeReader	770 TDExchangeReader_2018.0	ローカル	ローカル ネット表示	ステーション	-	2	有効期限 日曜日 4月 1, 2018 08:59	セッション
2	132 TDProfessional	652 TDProfessional_2018.0	ローカル	ローカル ネット表示	ステーション	2	2	有効期限 日曜日 4月 1, 2018 08:59	2 セッション

●クライアントPCからの確認方法1:

各クライアントで ACC を起動し、「Sentinel キー」ページで、ライセンスサーバーの欄を確認します。
「セッション」欄に現在サーバーに接続中のクライアント数が表示されます。

ライセンスサーバーの「ネットフィーチャ」ボタンを選択すると、サーバーで管理されている製品ごとの使用状況が表示されます。



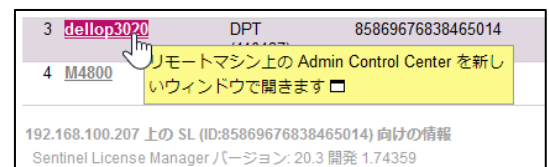
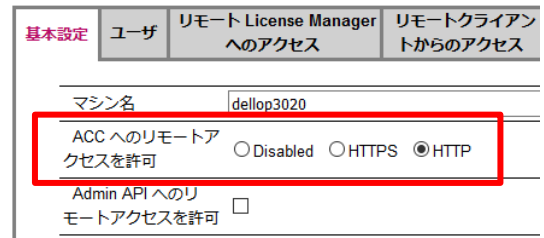
●クライアントPCからの確認方法2(サーバーにログインする方法):

ライセンスサーバーで起動した ACC で「構成定義」ページを開きます。

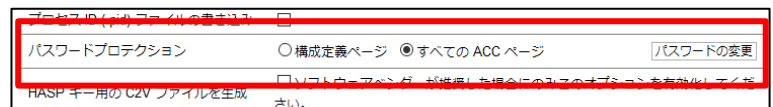
「基本設定」で、「ACC へのリモートアクセスを許可」で「HTTP」を選択します。「送信」ボタンを押します。

この設定を行うと、各クライアントからサーバーの ACC にログインすることができるようになります。

サーバーの ACC にログインするには、各クライアントにて「Sentinel キー」ページで、サーバー名または「参照」ボタンを選択します。



注: サーバーにログインして表示すると情報はリアルタイムに更新されますが、「ネットフィーチャ」から表示すると、情報が更新されるのに少しタイムラグがあります。
また、不用意にサーバーの設定を変えられないよう、ログインにはユーザー名/パスワードを設定することができます。サーバーの ACC で設定します。



4. セッションの強制終了

フローティングライセンスで管理されるライセンスは、オプション製品(コンバーター類)も含め、ThinkDesign 起動時または当該機能が使用されるときにサーバーより取得され、ThinkDesign を終了する際にサーバーへ返却されます。また、内部エラーなどが発生して ThinkDesign が異常終了した場合も、即座にサーバーへ返却されます。

しかし何らかの理由で返却されないライセンスが発見された場合、強制的にクライアントとの接続を終了することができます。

サーバーの ACC の「セッション」ページにて該当するライセンスの「接続終了」を選択します。

マシン	ログイン時刻	タイムアウト	アクション
TPW530:18028	金曜日 2月16, 14:28:03	11:03:40	接続終了
M4800:1192	金曜日 2月16, 14:41:58	11:18:47	接続終了

5. ブロードキャスト検索

ライセンスの検索には、デフォルトで「ブロードキャスト検索」が使用されています。この設定では、クライアントPCも含め、ネットワーク中に存在する Sentinel License Manager が動作しているすべてのPCが検索対象となり、リストに表示されます。

ブロードキャスト検索をオフにする(右図)と他のクライアントPCなどが検索されないため表示がシンプルになります。

しかしこの場合は、検索対象としたいPCを「リモートライセンス検索パラメータ」欄に手動で記載する必要があります。検索対象のPCは、名前またはIPアドレスを1行ずつ記載します。

なお、ブロードキャストが届かない場所(ネットワークセグメントの違う場所等)にサーバー機がある場合などは、クライアントPCで「リモートライセンス検索パラメータ」欄にサーバー機の情報に記載してください。

基本設定	ユーザ	リモート License Manager へのアクセス	リモートクライアント からのアクセス
リモートライセンスへのアクセスを許可 ☒ 変更が反映されるまで数分			
ブロードキャスト検索 ☐			
アグレッグレーション検索 ☐			
リモートライセンス検索パラメータ		servername1 servername2 192.168.100.207	

6. 使用するポート

クライアントPCとライセンスサーバーとの通信には、1947 番ポートが使用されます。このポートは、SafeNet(Gemalto)社のライセンスサービスの予約ポートで、他のアプリケーションが使用することはありません。

また ACC へは、以下のポート番号を記載した url から接続することができます。

ローカル(自マシン): http://localhost:1947

ライセンスサーバー: http://servername:1947、または http://サーバーの IP アドレス:1947
(接続が許可されている場合)

これらの url をブラウザのアドレス欄に直接記入して ACC を開くことができます。

7. タイムアウト値

ライセンスサーバーへの通信は、タイムアウト値が設定されています(変更不可)。サーバーとの通信に長い時間がかかるようであれば、サーバーと接続することはできません。(フローティングライセンスを使用することはできません。)

クライアントからサーバーへ送信した ping リクエストの応答時間が、およそ 300ms を超えるあたりから接続ができなくなるようです。地理的に離れた遠隔地にサーバーを設置する必要があるような場合はあらかじめ十分にご確認ください。

```
C:\Temp>ping servername

servername [192.168.100.252]に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.100.252 からの応答: バイト数 =32 時間 =353ms TTL=127
192.168.100.252 からの応答: バイト数 =32 時間 =352ms TTL=127
192.168.100.252 からの応答: バイト数 =32 時間 =357ms TTL=127
192.168.100.252 からの応答: バイト数 =32 時間 =355ms TTL=127

192.168.100.252 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4, 受信 = 4, 損失 = 0 (0% の損失),
ラウンドトリップの概算時間 (ミリ秒):
    最小 = 352ms、最大 = 357ms、平均 = 354ms

C:\Temp>
```

8. ファイアウォールの設定

フローティングライセンスサーバー（含む ThinkDesign）をインストールすると、ファイアウォールに設定が追加されます。ファイアウォールの設定は、

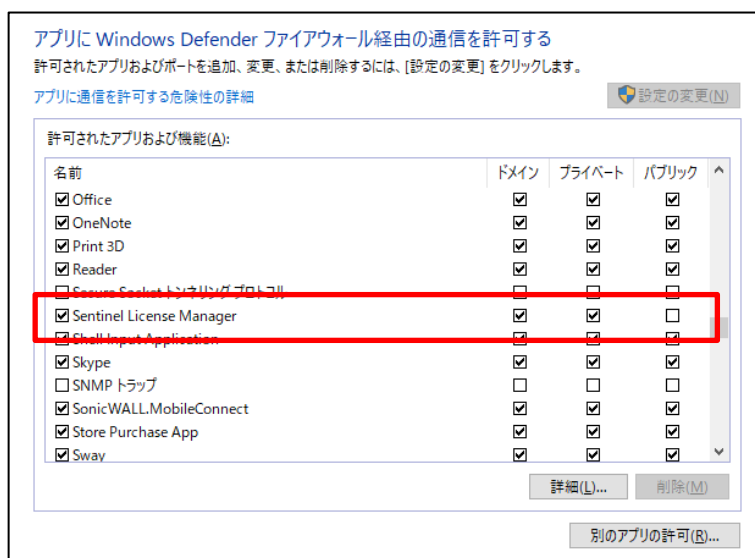
設定 → ネットワークとインターネット → Windows ファイアウォール

→ ファイアウォールによるアプリケーションの許可

から確認することができます。

「Sentinel License Manager」がフローティングライセンスサーバーによって追加された項目です。

バージョン 2020 から、この項目の設定の「パブリック」にチェックが付かなくなりました。



一般的にフローティングライセンスサーバーは、「ドメイン」もしくは「プライベート」ネットワークで使用していることが多く、通常この変更に影響を受けることはないと思いますが、もし何らかの理由で「パブリック」で使用していた場合、この設定ではクライアントからサーバー機が見えません。必要に応じて設定を変更してご使用ください。

4. 付録

4-1. 印刷の設定

1. 印刷の前に

通常、印刷はOSにインストールされているプリンタードライバーを通して行います。印刷設定を行う前に、以下の2点をご確認ください。

- ・ 使用するPCに、これから使用するプリンターのドライバーがインストールされている。
- ・ 使用するPCから、これから使用するプリンターに対して正常に印刷ができる。(プリンタードライバーのテスト印刷や、メモ帳等からの出力でご確認ください。)

2. ハードコピー

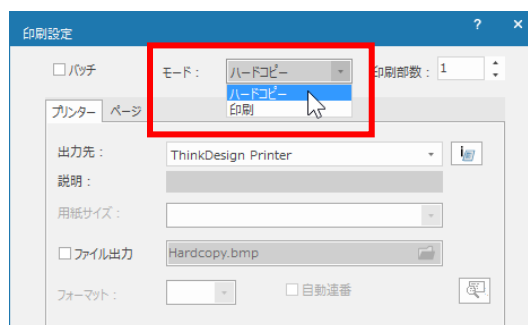
印刷には、画面イメージをそのまま出力する「ハードコピー」と、「印刷」(いわゆる「プロットアウト」)の2種類があります。はじめに「ハードコピー」を説明します。

「ファイル→印刷設定」を選択すると、印刷設定ダイアログが表示されます。モードで「ハードコピー」を選択します。

●「プリンター」タブ

「プリンター」タブでは、出力先を選択します。

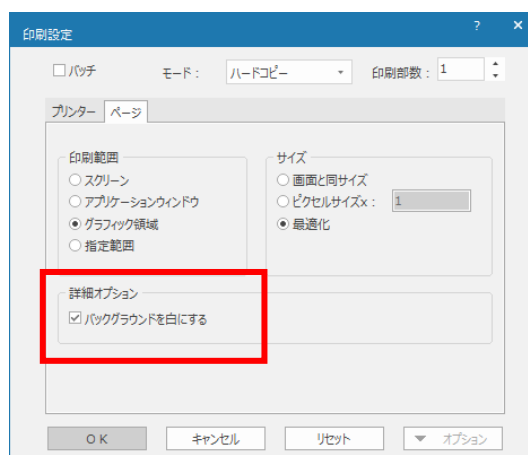
「ファイル出力」にチェックすると、画面イメージをプリンターではなく、画像ファイルとして出力することもできます。この際には出力フォーマットの選択や、フォーマットに応じた出力オプションも選択することができます。



●「ページ」タブ

「ページ」タブでは、出力時の設定を行います。

「詳細オプション」で、「バックグラウンドを白にする」を指定すると、背景色を白にして出力します。通常のハードコピーではこの設定が使いやすいのですが、高品質レンダリングの結果を出力する場合は、この設定を外してください。

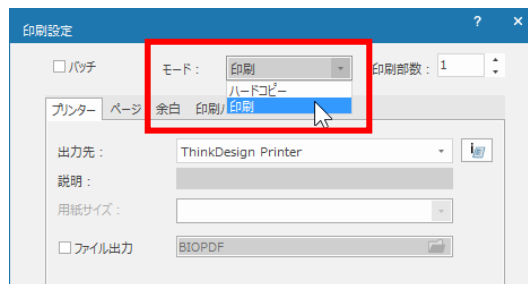


3. 印刷

印刷設定にて、モードで「印刷」を選択します。

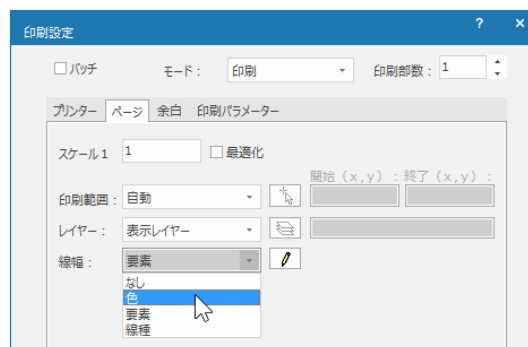
●「プリンター」タブ

「プリンター」タブでは、出力先を選択します。



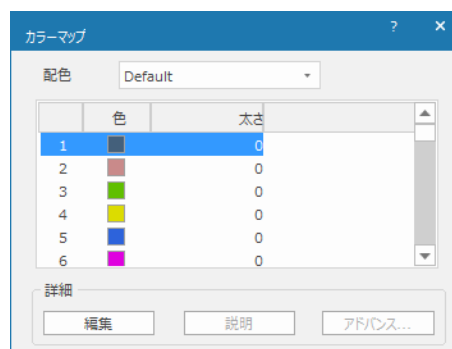
●「ページ」タブ

「ページ」タブでは、出力スケール、印刷範囲、印刷する範囲、印刷時の線幅などを指定することができます。



「線幅」で「色」を選択した場合、要素の色と線幅を関連付けて印刷することができます。線幅の設定はカラーマップコマンド(書式→カラーマップ)で行います。

右図は図面(2D)での画面です。3Dでは色番号を選択し「アドバンス」ボタンを押して設定します。



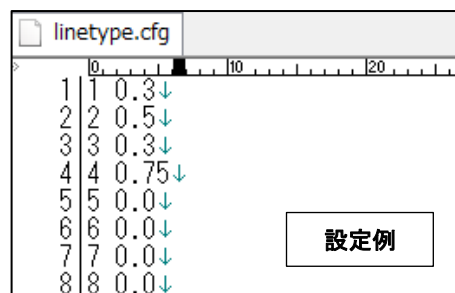
「要素」を選択した場合、要素の画面上での太さと線幅を関連付けて印刷することができます。右図のダイアログでそれぞれの太さを設定します。



「線種」を選択した場合、要素幅1番の要素に限って線種と線幅を関連付けて印刷することができます。関連付けは以下のファイルで設定します。

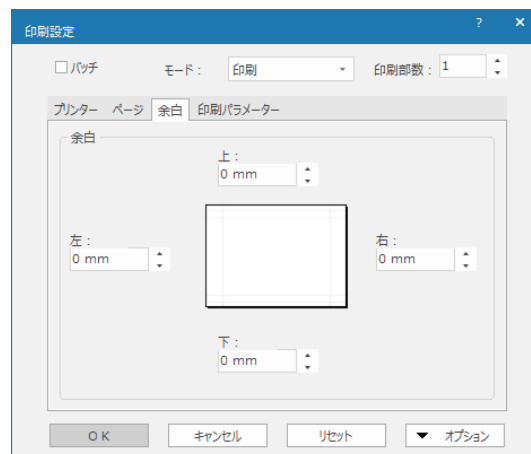
C:\Program Files \think3\バージョン<
¥thinkdesign¥files¥printers¥linetype.cfg"

要素幅2～4番の要素は「要素」で設定したものが反映されます。



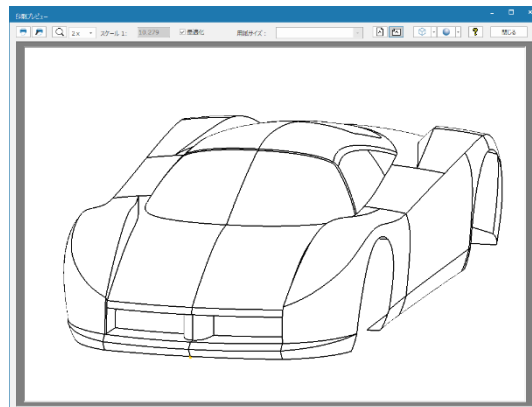
●「余白」タブ

「余白」タブでは、用紙周囲の余白を設定することができます。上下左右の数値を入力します。



余白の調整は、印刷プレビューを見ながら行うこともできます。この際は、マウスの右ボタンを押しながらドラッグして、出力したい図面が画面の中央に収まるように調整します。

「最適化」のチェックを外すと Shift+右ボタンドラッグで大きさを調整することもできます。

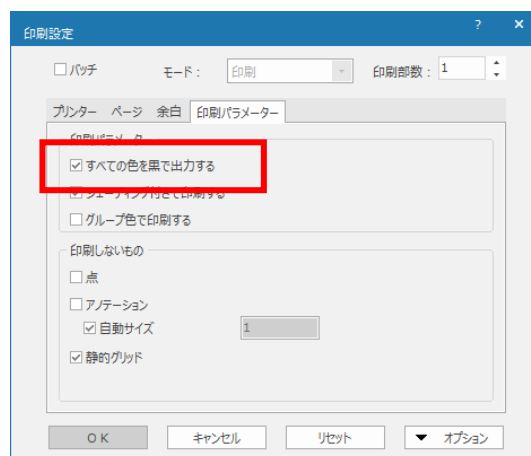


●「印刷パラメーター」タブ

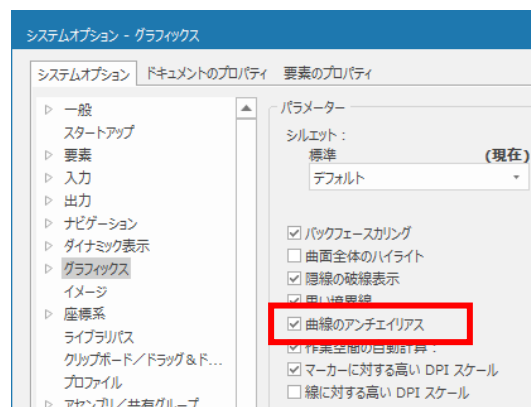
「印刷パラメーター」タブでは、印刷時の細かな設定を行うことができます。

「すべての色を黒で出力する」のチェックを外すとカラー印刷を行うことができます。

3次元環境より印刷する場合、シェーディング付きでカラー出力すると、ハードコピーよりも高精細な結果が得られます。



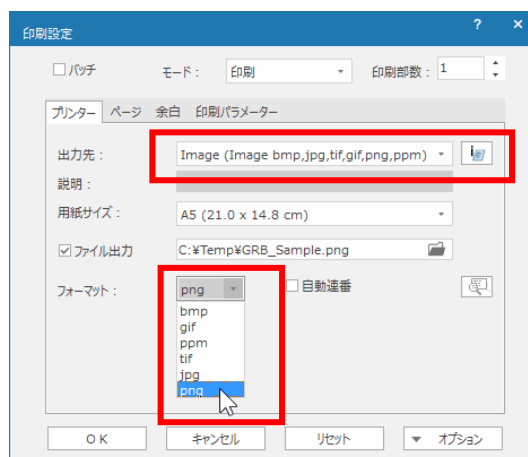
高品質レンダリングで出力する場合は、テセレーション(シェーディング)の精度を調整し、曲線にアンチエイリアスをかけると良いでしょう。



● イメージ出力

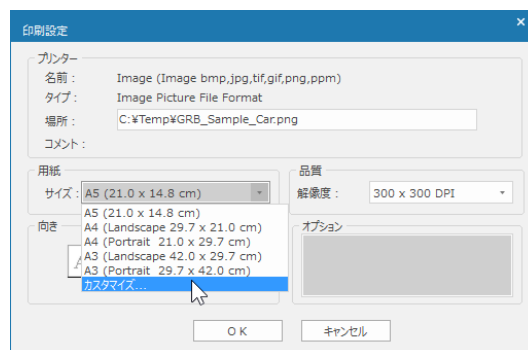
「印刷」モードで出力先として「Image」を選択すると、ビットマップ出力を行うことができます。

この時は「ファイル出力」にチェックしてファイル名を指定し、ドロップダウンリストから出力したいフォーマットを選択します。



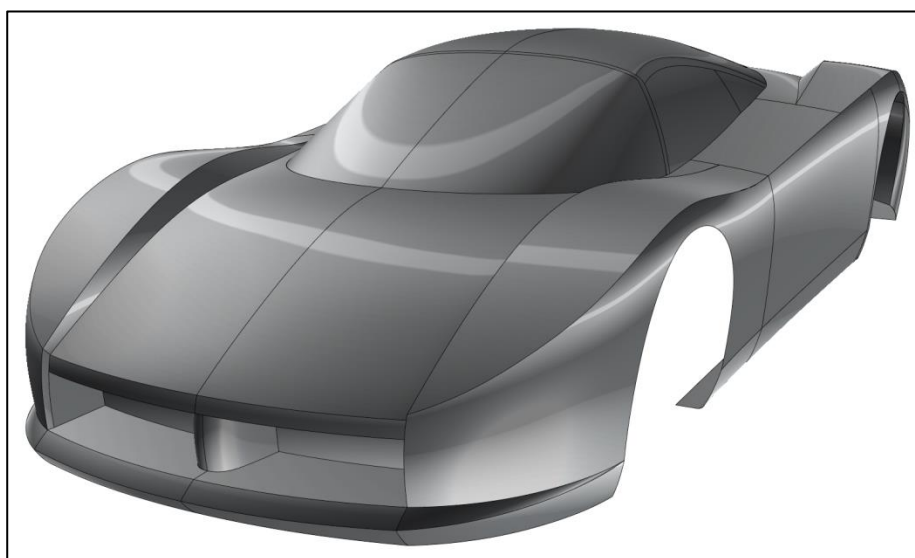
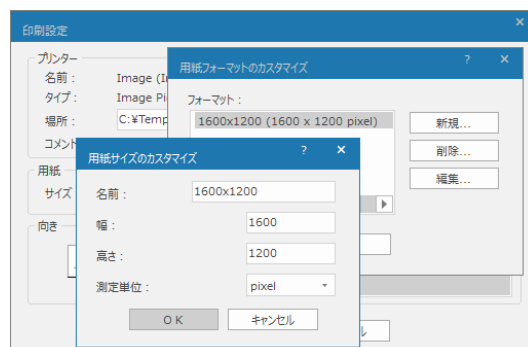
イメージ出力では、選択した用紙サイズに合わせて自動的に出力ドット数が計算されますが、任意のドット数を指定して出力サイズをカスタマイズすることもできます。

例えば 1600x1200 ドットを指定したい場合は、サイズより「カスタマイズ」を選択し、フォーマットを新規に作成します。



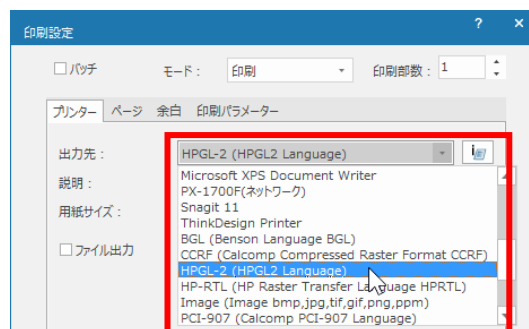
幅と高さに 1600、1200 と入力し、測定単位に pixel を指定します。

なお、シェーディング付き出力はビデオカードの性能(メモリ)に依存します。搭載メモリが少ないと大きなサイズでの出力ができないことがあります。



- ウィンドウズ用ドライバーの無いプロッターを使用する場合
印刷には、通常はウィンドウズのプリンタードライバーを使用して出力してください。

その他に、HPGL2、HP-RTL、Calcomp、CCRF などの特別な形式で印刷用データを出力することもできます。お手元のプロッターがウィンドウズのプリンタードライバーを持っていなくても、これらの形式のデータに対応していれば使用することができます。

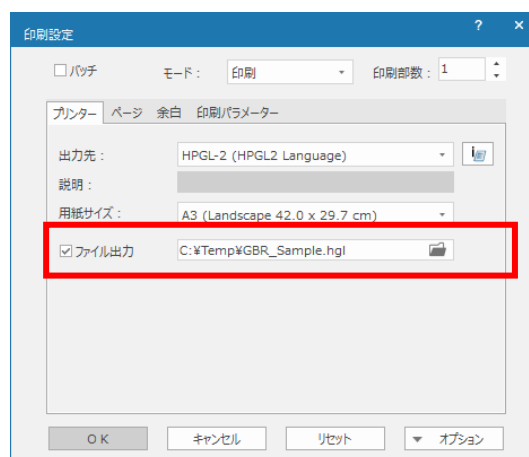


出力先、用紙サイズに適切なものを選択します。出力先はデフォルトでは LPT1 (パラレルポート) になっているのでパラレルポートにプロッターが直結してある場合はそのまま出力することができます。

プロッターが直結していない場合は、「ファイル出力」にチェックし、印刷データをいったんファイルに出力します。

出力されたファイルは lpr コマンドや ftp コマンドを使用してプロッターへデータを転送します。

線の太さなどの設定は、ウィンドウズ用ドライバー経由で出力する場合と同様に設定します。



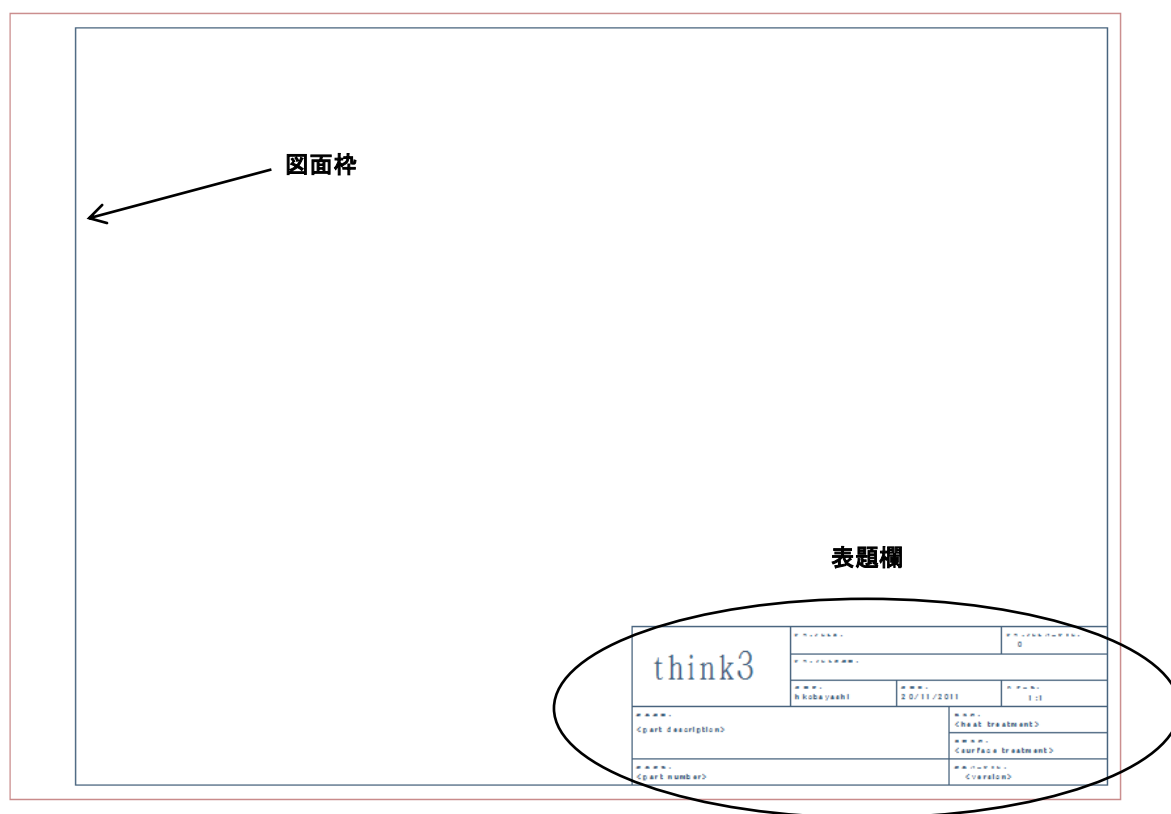
※lpr コマンド、ftp コマンドの使用法はそれぞれのコマンドのヘルプ等を参照してください。

4-2. 図面枠と表題欄のカスタマイズ

1. 「図面枠」と「表題欄」

図面枠は「図面枠」と「表題欄」の2つに分けて管理されています。

図面に挿入される際は、図面枠と表題欄の双方を別個に読み込み、組み合わせて図面枠としています。



このようにすると、用紙サイズや方向を変更しても読み込まれる表題欄は変わらないので、表題欄の管理が容易になるためです。

したがって図面枠をカスタマイズする際も、「図面枠」と「表題欄」の2つを用意します。

2. 図面枠と表題欄の編集

はじめに使用したい図面枠を「図面枠」と「表題欄」に分割します。

図面枠、表題欄共に、不要な部分をトリムしたり、不足した線を追加したり、文字の大きさやフォントなどを調整します。

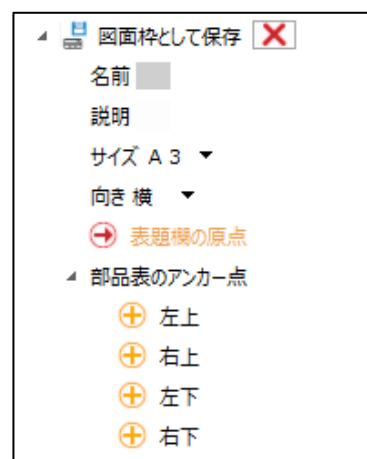
表題欄は、左下が原点に一致するように移動します。

3. 図面枠と表題欄の保存

「ファイル→図面枠として保存／表題欄として保存」コマンドで、図面枠と表題欄をそれぞれ保存します。

右図は「図面枠として保存」コマンドで、説明欄に入力した説明が図面に挿入する際の「説明」として表示されます。

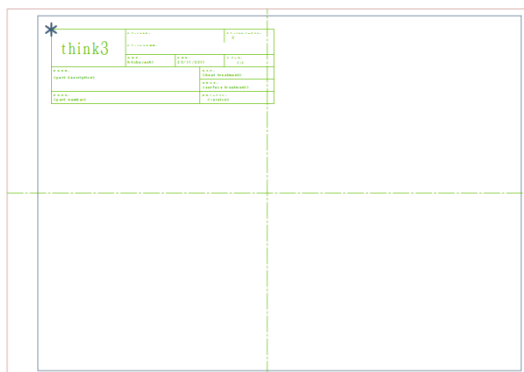
表題欄を配置する基準点は「表題欄の原点」で指定します。



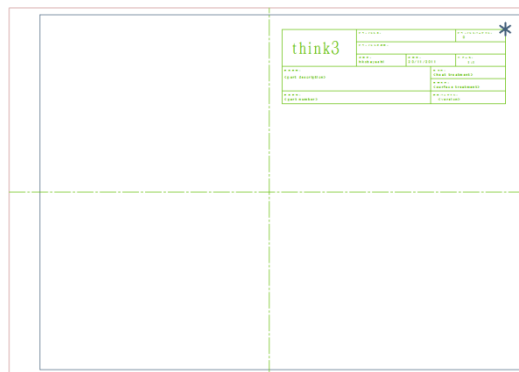
●表題欄の原点の位置と表題欄との関係

図面枠中で表題欄が配置される場所は、指定した原点の位置によって制御されます。この時、原点の位置によって、以下のように表題欄の場所が変わります。（原点として、レイヤー1023 に点が作成されます。）

●図面枠左上に配置



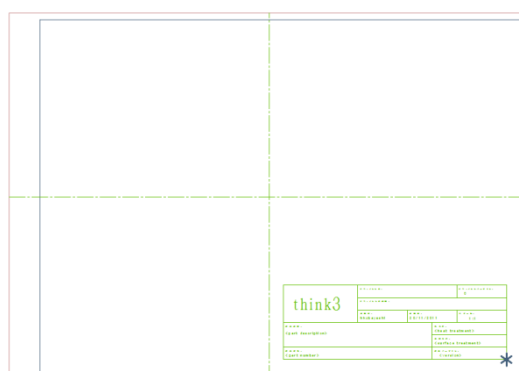
●図面枠右上に配置



●図面枠左下に配置



●図面枠右下に配置



図面枠、表題欄共に複数設定することができ、図面に挿入する際に選択することができます。作成した図面枠と表題欄は、図面枠と表題欄コマンド（挿入→図面枠と表題欄）を使用して図面内に挿入します。

4. 図面枠と表題欄の保存場所

保存した図面枠や表題欄は次のフォルダー内の drwFrames、drwTBlocks フォルダーに保存されます。

C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\think3\thinkdesign\<バージョン>\files

バージョン 2007.1 以前にカスタマイズした図面枠や表題欄がある場合、上記フォルダーへコピーするとそのままカスタマイズした図面枠、表題欄として使用することができます。ただしこの場合、図面枠や表題欄挿入時に「説明」が表示されず、代わりにファイル名が表示されます。説明を表示させるためにはあらためて「図面枠として保存」「表題欄として保存」コマンドで説明を入力して保存し直してください。

5. 表題欄を図面枠に含める方法

標準的な方法では、図面枠と表題欄は必ず分けて管理します。

表題欄を図面枠に含め、図面枠ファイルのみで使用したい場合は、次のように設定します。

1. 表題欄込みの図面枠ファイルを用紙サイズ、方向ごとに作成する
2. ダミーの表題欄ファイルを作成する
要素を何も含まない空の表題欄ファイルを作成し、「表題欄として保存」コマンドで保存します。

「DPT / think3 製品インストールガイド」 2020 年 9 月 2 日発行 Rev.13.1

発行者:

T3Japan 株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明 3-7-26 有明フロンティアビル B 棟 9 階

ThinkDesign Web site: <http://www.dptcorporate.com/ja/>

T3Japan Web site: <https://www.t3-japan.co.jp>

カスタマーケア: <https://dpt3.dptcorporate.com>

Copyright© 2020 T3Japan K.K.

本書の一部または全部を無断で転載することを禁じます。

本書の内容は断りなく変更することがあります。